

令和5年度
学校安全総合支援事業報告書

石巻市教育委員会

学校安全総合支援事業実践報告書 目次

I 事業の概要及び具体的な取組	1
1 地域の実態	1
2 防災に関すること	1
3 交通安全に関すること	3
4 防犯を含む生活上の安全に関すること	4
II 防災に関する取組	5
1 緊急地震速報受信機の設置状況とその活用について	5
(1) 緊急地震速報受信機について	5
(2) 緊急地震速報受信機の設置状況について	6
(3) 緊急地震速報受信機の活用について	8
2 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の取組	9
【平成24年度設置校】 ※実践的防災教育総合支援事業により設置	
・石巻市立石巻小学校	10
・石巻市立鹿妻小学校	12
・石巻市立広渕小学校	14
・石巻市立中津山第二小学校	16
・石巻市立鮎川小学校	18
・石巻市立住吉中学校	20
・石巻市立北上中学校	22
【平成25年度設置校】 ※実践的防災教育総合支援事業により設置	
・石巻市立住吉小学校	24
・石巻市立貞山小学校	26
・石巻市立鹿又小学校	28
・石巻市立大原小学校	30
・石巻市立万石浦中学校	32
・石巻市立飯野川中学校	34
【平成26年度設置校】 ※実践的防災教育総合支援事業により設置	
・石巻市立湊小学校	36
・石巻市立渡波小学校	38
・石巻市立万石浦小学校	40
・石巻市立大谷地小学校	42
・石巻市立和渕小学校	44
・石巻市立湊中学校	46
・石巻市立青葉中学校	48
【平成27年度設置校】 ※実践的安全教育総合支援事業により設置	
・石巻市立寄磯小学校	50
・石巻市立石巻中学校	52

【平成28年度設置校】	※実践的安全教育総合支援事業により設置	
・石巻市立北上小学校		5 4
・石巻市立牡鹿中学校		5 6
【平成29年度設置校】	※実践的安全教育総合支援事業により設置	
・石巻市立雄勝小・中学校		5 8
・石巻市立渡波中学校		6 0
【平成30年度設置校】	※学校安全総合支援事業により設置	
・石巻市立大街道小学校		6 2
【令和元年度設置校】	※学校安全総合支援事業により設置	
・石巻市立釜小学校		6 4
・石巻市立二俣小学校		6 6
・石巻市立山下中学校		6 8
【令和2年度設置校】	※学校安全総合支援事業により設置	
・石巻市立開北小学校		7 0
・石巻市立中里小学校		7 2
・石巻市立河北中学校		7 4
【令和3年度設置校】	※学校安全総合支援事業により設置	
・石巻市立蛇田小学校		7 6
・石巻市立向陽小学校		7 8
・石巻市立飯野川小学校		8 0
【令和4年度設置校】	※学校安全総合支援事業により設置	
・石巻市立稲井小学校		8 2
・石巻市立稲井中学校		8 4
・石巻市立河南東中学校		8 6
【令和5年度設置校】	※学校安全総合支援事業により設置	
・石巻市立山下小学校		8 8
・石巻市立蛇田中学校		9 0
・石巻市立河南西中学校		9 2
3 「復興・防災マップ」の取組		9 5
・石巻市立向陽小学校		9 6
・石巻市立雄勝小学校		9 8
・石巻市立石巻中学校		1 0 0
Ⅲ 「交通安全の充実」に向けた取組		1 0 3
・石巻市立貞山小学校		1 0 4
Ⅳ 「生活安全（防犯を含む）の充実」に向けた取組		1 0 7
・石巻市立万石浦小学校		1 0 8

I 事業の概要及び具体的な取組

石巻市教育委員会では、文部科学省からの委託（宮城県教育委員会からの再委託）を受け、令和5年度「学校安全総合支援事業」に取り組んでいる。

本事業では、「災害安全」で緊急地震速報受信機を設置した学校での避難訓練や「復興・防災マップ」の作成等を実施し、実践的な防災教育の充実に向けて取り組んできた。「交通安全」では、市内の小学校1校を実践協力校に指定し、アドバイザーからの指導・助言を仰ぎながら、「交通安全に関する授業」の実践や、まち歩きを通して学区内の交通危険箇所を地図にまとめる「交通安全マップづくり」に取り組んできた。「生活安全」では、市内の小学校1校を実践協力校に指定し、「防犯カメラ」を活用した不審者の早期発見とすばやい通報ができるよう、警察の生活安全課や駐在所などの協力による不審者対応避難訓練を実施してきた。

今年度も、セーフティプロモーションスクール（SPS）認証に向けた取組として、小学校1校と中学校1校を認証支援校として推薦し、大阪教育大学学校安全推進センターの先生を招聘して、認証のための取組を進めてきた。

以下に事業概要及び具体的な取組を記すとともに、各学校での取組を紹介する。

1 地域の実態

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、石巻市は甚大な被害を受け、多くの尊い命が失われた。インフラ等の復旧・復興はかなり進んだ分、震災の記憶の風化が課題である。「災害安全」においては学校地域防災連絡会の設置率が100%に達している。

「交通安全」においては、震災復興のために新しい道路や橋が増え、交通量が多くなっている。「生活安全」に関しては、本市の不審者の出没が後を絶たない状況であり、住宅地や商店街、公園、駅周辺、路地裏等において関係機関と連携しながら不審者対策に努めている。

2 防災に関すること（事業概要）

1 概要

児童生徒等が災害から自らを守るために、主体的に行動する態度を育成することをねらいとし、市内小中学校3校に緊急地震速報受信機を導入して、緊急地震速報を活用した避難訓練を実践した。また、過去11年間で導入した学校を含めた56校園で情報交換を行い、より有効な避難訓練時の活用の在り方を検討した。

総合的な学習の時間等を活用して「復興・防災マップづくり」に取り組ませ、地域の自然や歴史、復興や防災に関する情報収集を行わせて、地域のよさや魅力を再発見させながら、地域の未来のために貢献しようとする態度の育成を図った。

石巻市の現状を踏まえ、小学校1校と中学校1校をセーフティプロモーションスクール（SPS）認証に向けた認証申請支援校に指定し、学校防災への意識を高めるための実践的な取組を行った。

2 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の取組

<実践的な取組を実施した学校名>

- ・石巻市立山下小学校
- ・石巻市立蛇田中学校
- ・石巻市立河南西中学校

<防災主任研修会兼学校安全対策研修会での実践発表>

- ・期 日：令和6年1月26日（金）
- ・場 所：桃生公民館
- ・講 師：東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健 氏、桜井 愛子 氏

3 復興・防災マップの取組

<実践的な取組を実施した学校名>

- ・石巻市立向陽小学校
- ・石巻市立雄勝小学校
- ・石巻市立石巻中学校

<実践校訪問指導>

- ・期 日：令和5年7月21日（金）28日（金）
- ・場 所：21日・向陽小学校、雄勝小学校、28日・石巻中学校
- ・講 師：21日・山形大学 客員研究員 村山 良之 氏
28日東北大学災害科学国際研究所 教授 桜井 愛子 氏
東北大学災害科学国際研究所 研究協力者 北浦 早苗 氏

<防災主任研修会兼学校安全対策研修会での実践発表>

- ・期 日：令和6年1月26日（金）
- ・場 所：桃生公民館
- ・講 師：東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健 氏、桜井 愛子 氏

4 SPS 認証に向けた取組

<実践的な取組を実施した学校名>

- ・石巻市立和渕小学校
- ・石巻市立渡波中学校

<認証に向けた学校訪問>

- ・期日：令和5年8月29日（火）
- ・場所：渡波中学校、和渕小学校
- ・講師：大阪教育大学 教授 学校安全推進センター長 藤田 大輔 氏

<SPS 認証に向けた審査会>

- ・期日、場所：令和5年12月18日（月）和渕小学校
令和5年12月19日（火）渡波中学校
- ・講師：大阪教育大学 教授 学校安全推進センター長 藤田 大輔 氏

<防災主任研修会兼学校安全対策研修会での実践発表>

- ・期 日：令和6年1月26日（金）
- ・場 所：桃生公民館
- ・講 師：東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健 氏、桜井 愛子 氏

5 取組における成果と今後の課題

<緊急地震速報受信機を活用した防災教育の取組の成果と課題>

- ・平成24年度から令和5年度までの12年間で緊急地震速報受信機を市内43校に設置した。市内43校では、地震の想定を震度5弱から震度7に設定したり、過去に起きた主要地震のデータを活用したりして、津波を含めた避難訓練を実施している。
- ・緊急地震速報受信機を活用することによって臨場感が生まれ、児童生徒に「災害に常に備える」という意識を持たせることができた。
- ・緊急地震速報受信機の操作方法について、マニュアルを作成し、教職員の共通理解のもとで訓練できるようにする必要がある。

<復興・防災マップの取組の成果と課題>

- ・令和5年度は、向陽小学校、雄勝小学校、石巻中学校の3校を実践協力校に指定した。
- ・マップづくりを通して、児童生徒が身近なところにある安全な場所や、災害時に役立つ施設があることに気付き、「自分たちの学びを伝えたい」という意識の高まりが見られた。
- ・東日本大震災から12年以上が経過し、震災を知らない児童生徒が増えてきている。地域の方々の協力を得ながら防災意識を高め、災害時に主体的に行動できる子どもを育てるための工夫が必要である。

3 交通安全に関すること（事業概要）

1 事業の概要

児童が地域の交通事情に関心をもち、進んで地域の危険箇所を見付け、登下校時や日常の中に潜む様々な危険を予測し、正しい判断をしながら安全に行動する能力を養う。

2 「交通安全の充実」に向けた取組

＜実践的な取組を実施した学校＞

- ・石巻市立貞山小学校

＜実践校訪問指導及び実践委員会＞

- ・期 日：令和5年7月26日（水）
- ・場 所：貞山小学校
- ・講 師：東北工業大学 教授 小川 和久 氏
- ・参加者：小川教授（交通安全アドバイザー）、校長、教頭、安全主任、市教委学校安全推進課指導主事

＜実践委員会＞

- ・期 日：令和5年9月20日（水）
- ・場 所：貞山小学校
- ・参加者：校長、教頭、安全主任、学校運営協議会委員、市教委学校安全推進課指導主事

＜授業参観及び実践委員会＞

- ・期 日：令和5年10月6日（金）
- ・場 所：貞山小学校
- ・講 師：東北工業大学 教授 小川 和久 氏
- ・参加者：小川教授（交通安全アドバイザー）、校長、教頭、安全主任、県教育庁保健体育安全課学校安全・防災専門監、同主査、市教委学校安全推進課指導主事

＜防災主任研修会兼学校安全対策研修会での実践発表＞

- ・期 日：令和6年1月26日（金）
- ・場 所：桃生公民館
- ・講 師：東北工業大学 教授 小川 和久 氏

3 取組における成果と今後の課題

- ・交通安全マップづくりを通して主体的に学ぶ児童が増えた。また、初めて知る情報が多くあり、地域をより詳しく知るきっかけにもなった。
- ・5年生で交通安全マップを作成したことで、6年生になって交通安全少年団として活動をすることを楽しみにする児童が増えた。
- ・交通安全マップの作成を続けるためには、児童の視点だけではなく保護者や地域の声を反映させることも必要である。
- ・標語を募集して交通安全少年団で審査をするなど児童のアイデアを生かすようにする必要がある。

4 防犯を含む生活上の安全に関すること（事業概要）

1 事業の概要

不審者が校内に侵入した場合や児童が不審者に遭遇した場合の非常時の駆け込み体制を整備し、学校内外での安全・安心の確保を図る。

2 「生活安全（防犯を含む）の充実」に向けた取組

＜実践的な取組を実施した学校＞

- ・石巻市立万石浦小学校

＜実践校訪問指導及び実践委員会＞

- ・期 日：令和5年7月26日（水）
- ・場 所：万石浦小学校
- ・講 師：東北工業大学 教授 小川 和久 氏
- ・参加者：小川教授（生活安全アドバイザー）、校長、教頭、防災主任、市教委学校安全推進課指導主事

＜実践委員会の実施＞

- ・期 日：令和5年10月4日（水）
- ・場 所：万石浦小学校
- ・参加者：校長、教頭、教務主任、防災主任、学校地域防災連絡会役員
市教委学校安全推進課指導主事

＜不審者対応避難訓練及び実践委員会＞

- ・期 日：令和5年11月8日（水）
- ・場 所：万石浦小学校
- ・講 師：東北工業大学 教授 小川 和久 氏
- ・参加者：小川教授（生活安全対策アドバイザー）、石巻警察署生活安全課職員、校長、教頭、防災主任、市教委学校安全推進課長、同担当指導主事、県教育庁保健体育安全課学校安全・防災専門監、同主査、

＜防災主任研修会兼学校安全対策研修会での実践発表＞

- ・期 日：令和6年1月26日（金）
- ・場 所：桃生公民館
- ・講 師：東北工業大学 教授 小川 和久 氏

3 取組における成果と今後の課題

- ・防犯カメラが設置されたことにより、日頃から映像を確認する習慣が教職員に身に付いた。また、不審者を発見し通報するまでの時間が速くなり、児童の安全を確保することができるようになった。
- ・訓練を通して、不審者に対応する職員の連携や教室の施錠、警察との連携がしっかりできるようになった。
- ・体育館での授業時や休み時間等、様々な場面を想定して訓練を行う必要がある。
- ・出張等で職員が手薄な時に対応できるようにしておく必要がある。
- ・警察が来るまでの時間をいかにして稼ぐかを考える視点が重要である。
- ・地域と連携した取り組みの推進を今後も進めていく必要がある。

Ⅱ 防災に関する取組

1 緊急地震速報受信機の設置状況とその活用について

(1) 緊急地震速報受信機について

①緊急地震速報の仕組み

地震による初期微動（P波）と主要動（S波）には伝達速度に違いがあり、P波が先に伝わる。その差を利用し、大きな揺れを伴うS波が到達する前に地震の発生を知らせる情報が、緊急地震速報である。震源に近い地震計がP波を観測すると、そのデータは気象庁に送信され、震源の位置や地震の規模（マグニチュード）を予測し、各地のS波到達時刻と震度を予想して緊急地震速報として発表される。

最大予測震度が5弱以上である場合に発表される一般向けの緊急地震速報（警報）と、マグニチュードが3.5以上、または最大予測震度が3以上である場合等に発信される高度利用者向けの緊急地震速報（予報）がある。

②導入機種について

本事業で導入したのは、「緊急地震速報発報端末 地震の見張り番 Touch」である（株式会社センチュリー社製）。

高度利用者向け緊急地震速報を受信し、現地演算方式により登録した設置場所ごとの情報を提供するほか、次のような特長がある。



・放送設備との連動、自動制御

緊急地震速報を受信すると、到達までの時間と予測される震度を画面に表示し、同時に音声で通知する。さらに、設定震度以上の地震が予想される場合は、自動的に校内放送設備を立ち上げ、音声により通知する。

・シミュレーション訓練機能

任意の震度と到達時間を設定して訓練することができる。また、過去の地震データが登録されており、再現シミュレーションで訓練をすることができる。

・津波情報の受信

気象庁から津波・地震情報が発表された場合は、緊急地震速報と同様に画面、音声、校内放送で通知する。

(2) 緊急地震速報受信機の設置状況について

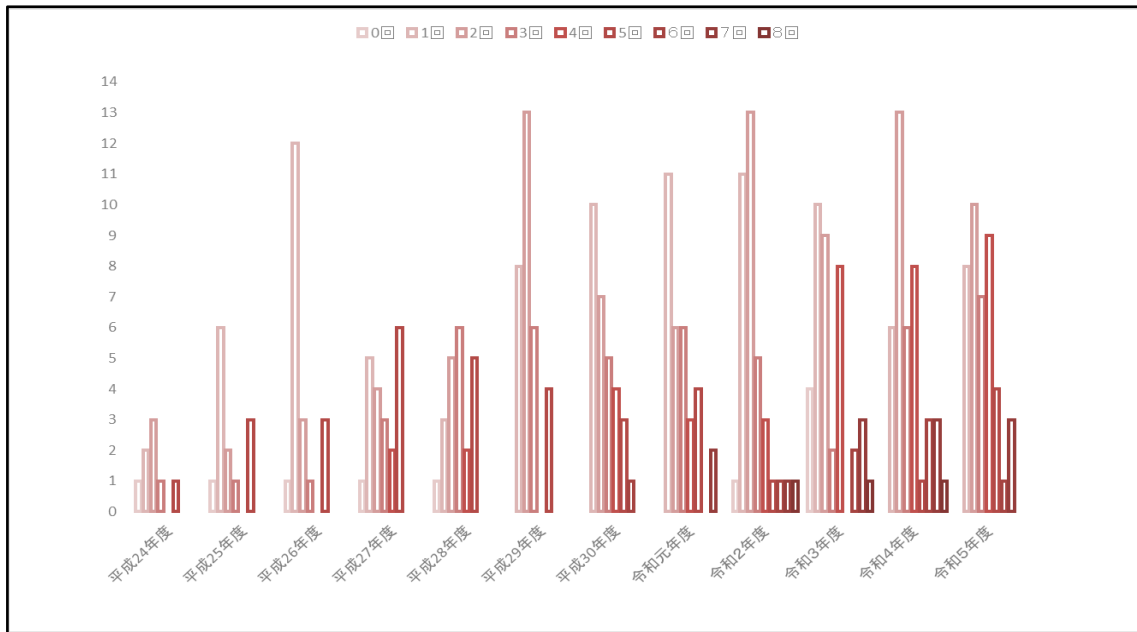
設置校一覧

No.	設置年度	設置校
1	平成24年度	石巻市立石巻小学校
2	平成24年度	石巻市立鹿妻小学校
3	平成24年度	石巻市立広瀬小学校
4	平成24年度	石巻市立中津山第二小学校
5	平成24年度	石巻市立鮎川小学校
6	平成24年度	石巻市立住吉中学校
7	平成24年度	石巻市立北上中学校
8	平成25年度	石巻市立住吉小学校
9	平成25年度	石巻市立貞山小学校
10	平成25年度	石巻市立鹿又小学校
11	平成25年度	石巻市立大原小学校
12	平成25年度	石巻市立万石浦中学校
13	平成25年度	石巻市立飯野川中学校
14	平成26年度	石巻市立湊小学校
15	平成26年度	石巻市立渡波小学校
16	平成26年度	石巻市立万石浦小学校
17	平成26年度	石巻市立大谷地小学校
18	平成26年度	石巻市立和瀬小学校
19	平成26年度	石巻市立湊中学校
20	平成26年度	石巻市立青葉中学校
21	平成27年度	石巻市立寄磯小学校
22	平成27年度	石巻市立石巻中学校
23	平成28年度	石巻市立北上小学校
24	平成28年度	石巻市立牡鹿中学校
25	平成29年度	石巻市立雄勝小学校
26	平成29年度	石巻市立雄勝中学校
27	平成29年度	石巻市立渡波中学校
28	平成30年度	石巻市立大街道小学校
29	令和元年度	石巻市立釜小学校
30	令和元年度	石巻市立二俣小学校
31	令和元年度	石巻市立山下中学校
32	令和2年度	石巻市立中里小学校
33	令和2年度	石巻市立開北小学校

34	令和 2 年度	石巻市立河北中学校
35	令和 3 年度	石巻市立蛇田小学校
36	令和 3 年度	石巻市立向陽小学校
37	令和 3 年度	石巻市立飯野川小学校
38	令和 4 年度	石巻市立稲井小学校
39	令和 4 年度	石巻市立稲井中学校
40	令和 4 年度	石巻市立河南東中学校
41	令和 5 年度	石巻市立山下小学校
42	令和 5 年度	石巻市立蛇田中学校
43	令和 5 年度	石巻市立河南西中学校

(3) 緊急地震速報受信機の活用について

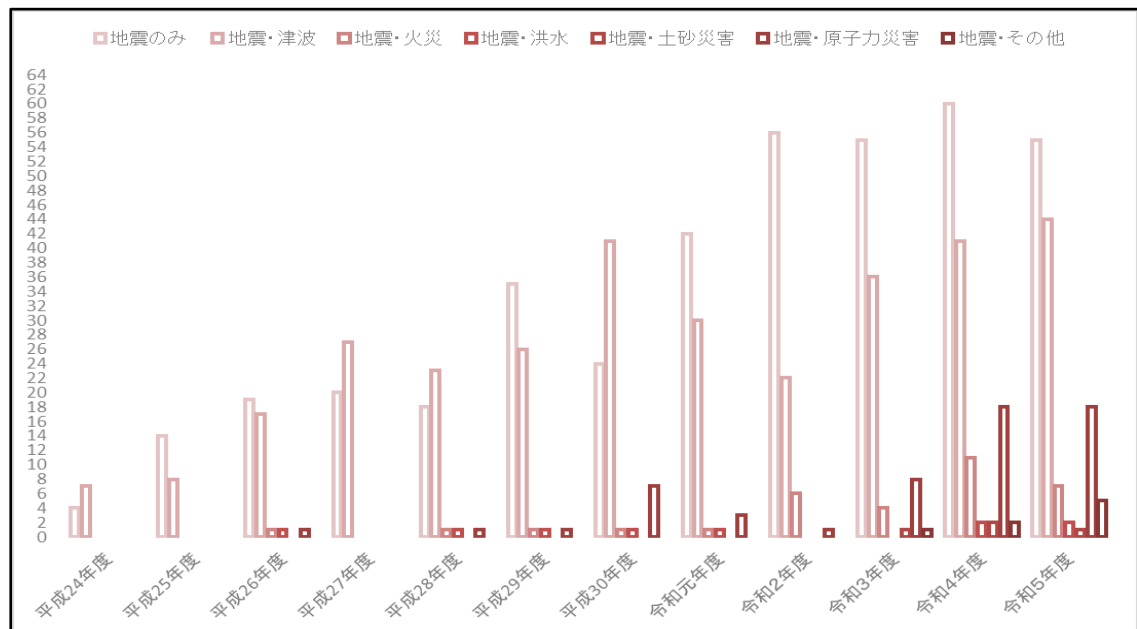
【緊急地震速報受信機を活用して避難訓練をした回数】



<まとめ>

- ・緊急地震速報受信機設置校では、受信機を活用した避難訓練の実施回数の平均は3.1回（前年度3.3回）だった。3回以上活用した学校は25校で7回活用した学校は3校あったが、1回にとどまっている学校も8校あった。
- ・緊急地震速報が流れると、児童生徒は教師の指示を待つことなく自分で判断し、身を守る行動が取れるようになってきている。

【緊急地震速報受信機を活用した避難訓練に係る災害想定】



<まとめ>

- ・緊急地震速報受信機を活用した避難訓練は、「地震のみ」を想定した訓練より「地震・津波」や「地震・原子力」など、複合災害を想定した訓練が多くなり、実際の災害を意識した実践的な内容の訓練が行われるようになってきている。

2 緊急地震速報受信機を活用した 防災教育の取組



石巻市立石巻小学校

住 所 石巻市泉町一丁目1番2号

在籍数 281人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、大きく「中央エリア（商店街）」「山の手エリア」「門脇エリア（H27年度の統合により拡大）」に分けられ、「山の手エリア」を除いては東日本大震災での津波被害を受けている。

学校は、日和山の北側の低地に位置しており、東日本大震災においては床上30cm程度の津波被害を受けた。校舎については、平成22年度に耐震工事が完了しているため、地震による倒壊等の危険性は低いと言える。また、体育館は平成26年度に完成し、備蓄倉庫や太陽光発電等の防災施設・設備が完備されている。さらに、新しい津波浸水想定が発表され、学校付近は1m未満から3～5mに上方修正された。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	6/ 5 ・想定：地震（震度5強）、休み時間 ・1次避難：各活動場所、2次避難：各教室 6/ 7 ・想定：地震（震度5弱）・津波、授業中 ・1次避難：各教室、2次避難：校庭、3次避難：石巻中学校（旧門中） 3/ 6 ・想定：地震等の緊急時、清掃中（放送による1次避難のみ）
火災	11/ 2 ・出火想定：地域交流室・授業中 ・避難経路を通り校庭への避難 ・消防署の方より講評
その他	6/ 9 ・土砂災害対応避難訓練 9/ 7 ・不審者対応避難訓練 11/ 5 ・石小「みんなであんぜんの日」 ※石中学区4校での合同引渡し訓練 11/ 8 ・原子力災害対応避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要（緊急地震速報受信機を使った訓練は年4回実施）

① 事前指導等

- ・石巻市作成の防災副読本「未来へつなぐ」を活用し、避難訓練の意義や避難の仕方等について指導した。
- ・「安全の時間」（年間10回、業前、全校一斉）を設定し、様々な種類の災害や、様々な場面でのより安全な避難の仕方等



について指導している。

- ・各学級において、緊急地震速報の仕組みについて学んだ。「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に避難し、ダンゴムシのポーズをとることについて確認した。

② 訓練の取組状況

- ・訓練当日は、緊急地震速報受信機を使い、地震発生直前から素早く避難行動に入れるようにした。緊急地震速報のアラーム音を流し、揺れが収まるまで机の下に身をかくして避難行動をとった。
- ・各教室には、安否確認や引渡し用学級名簿、携帯ラジオ、予備用乾電池等をひとまとめにした「非常用持ち出し袋」を備え、担任は避難時にはそれを携帯して避難するように、共通理解を図っている。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことを受け、コロナ禍前の形に戻し全校一斉に訓練を実施した。3次避難場所である石巻中学校まで避難し、保護者へ児童を引き渡した。



机の下に1次避難をしている様子

③ 事後指導

- ・学級ごとに訓練の様子について具体的場面から振り返りを行うことで、より実践的な指導ができるようにした。また、今年度も1年を通して活用できる避難訓練振り返りカードを作成し、全校共通で活用・累積ができるようにした。



高台へ避難している様子

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 緊急地震速報の音源は緊迫感があり、それを活用することで児童は実際の地震発生時を思い浮かべながら、真剣な様子で訓練に取り組むことができた。また、毎年、緊急地震速報受信機を活用した避難訓練を数回実施しているので、教室以外の場所であっても、児童は混乱することなく、緊急地震速報に反応して身を守ることができるようになってきた。
- 大きな揺れが来る場合には、緊急地震速報で数秒前に地震発生について教えてくれるという安心感ができ、心に余裕を持って教育活動を行うことができる。
- 緊急地震速報の放送が流れたら、どんな学習や活動をしている場合でも動きを止めて静かにし、放送内容をしっかりと聞き取る訓練を繰り返し行っていく必要がある。



石巻中学校の体育館で保護者への引渡しをしている様子

石巻市立鹿妻小学校

住 所 石巻市鹿妻北二丁目 2 番 1 号

在籍数 2 8 3 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、湊地区と渡波地区の中間に位置しており、学区内の行政区も二分されている。そのため、防災に対する取組でも、学区内全ての地区において同一歩調で連携することが難しい状況にあった。こうした実態を踏まえ、平成 26 年 10 月に「鹿妻小学校地域防災連絡会」を発足させ、学区内の行政区長、町内会長及び本校 P T A、市の防災部局の方々を加えることで、学区内の各地区が互いに連携し合いながら、防災・減災に対する取組を推進する機能の整備を進めている。



2 令和 5 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震	4/13 避難経路確認避難訓練
地震	6/9 休憩時間避難訓練
原子力	6/7 原子力災害想定・児童引渡し訓練
地震	10/13 休憩時間避難訓練（一次避難のみ）
津波	11/5 石巻市総合防災訓練
地震	2/6～2/10 休憩時間避難訓練（一次避難のみ）
火災	11/14 火災想定避難訓練
その他	9/14 不審者侵入想定避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要（4/13 避難経路確認避難訓練）

① 事前指導等

- ・学校における地震発生時の行動（「上から落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所を探し自ら安全な場所に避難すること、放送や指示をよく聞く等）に関することを確認する。
- ・学校における避難の方法と避難経路を確認する。
- ・津波が発生する恐れがあるときは、「高い場所へ逃げる」ことを確認する。

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報の音を流し、各場所で一次避難をする。
- ・担任は人数確認と、報告を本部にする。
- ・校庭に二次避難をし、人数確認完了後、全体会を行った。



放送後にすぐに防災頭巾を被る児童

③ 事後指導

- ・振り返りカードを用いて、「おはしもの約束を守って避難することができたか」等について自己評価を行う。
- ・学級全体で成果と課題について発表し合い、確認する。



校庭に整列し、静かに待つ児童

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 真剣さが増していてよかった。
- 児童が頑張っていた。参加する態度が昨年度よりも立派だった。
- 先生方、支援員さん等含め全員がヘルメットを着用できた。



避難経路を確認する児童

●「非常時を想定し、名簿をもって避難したほうがよい」という反省が出た。

→非常時に備え、保護者に児童引渡し者の名簿の作成を依頼している。引渡し名簿は個人情報を除いた名簿を作成し、各教室の非常持ち出し袋に入れる予定である。詳しい個人情報が書かれた名簿は職員室に常時置いておき、非常時に持ち出せるようにする。

●検索の役割分担の偏りが大きかった。

→教員側の動きを細分化して役割を考えたい。

石巻市立広瀨小学校

住 所 石巻市広瀨字町北233番地

在籍数 184人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧河南町にある5つの地区（町上、町下、柏木、砂押、新田）からなる。学区のほとんどが低地で、定川と青木川が1km以内の距離にあることから、大雨・洪水による浸水被害が想定される。学区内には高い建物がないため、浸水時は広瀨小学校に避難するしかない。東日本大震災では、震度6弱だったが、津波による浸水はなかった。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 原子力 引渡し	5/1 想定：宮城県沖を震源とする地震が発生し、石巻市内で震度6強の揺れを観測。その場で一次避難をして、身の安全を確保した後、指定した避難経路を通して校庭に二次避難をする。地震により、女川原子力発電所で事故が発生と想定し、講堂へと避難する。 地震想定避難訓練実施後、保護者への引渡しを実施する。
不審者	6/8 想定：授業中に、不審な人物が職員玄関から入り、不審な行動を取っている。凶器となるものは持っていない様子だが、教室に押し入り、児童に危害を加える可能性が十分考えられるため、児童を講堂に避難させる。
洪水	9/12 想定：石巻地区に大雨・洪水警報が発令される。大雨の影響で定川の水が溢れ、校舎の1階まで浸水することが予想されるので校舎の3階に避難する。
火災	10/20 想定：機械室から出火しているのを用務員が発見する。非常ベルを鳴らし、用務員と教務が初期消火に当たったが消火できず、火災が発生した。校庭に二次避難する。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- 緊急地震速報から揺れが発生するまでの数秒の間に、自分の身をどのように守れるか確認していた学級もあった。放送が使えない場合の連絡手段も確認した。



【訓練時の様子】

② 訓練の取組状況

- ・一次避難後，校内放送で避難指示をし，校庭へ二次避難を行った。地震により，女川原子力発電所で事故が発生したと想定し，講堂へと避難した。



【校庭への二次避難】

③ 事後指導

- ・避難訓練後には，本校で活用している振り返りシートを活用し，事後指導をした。
- ・後日，防災だよりにて代表児童の感想や全校児童の振り返りシートの自己評価集計結果を掲載し，保護者にも発信した。



【教室にて事後指導】

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- ショート訓練も含めて日頃より緊急地震速報受信機を使用しているため，どの学年も迅速に避難行動が取れた。
- 事前の職員研修で管理職や防災担当だけでなく，多くの職員が緊急地震速報受信機を扱えるようになった。



【引渡し訓練の様子】

- 緊急地震速報受信機を活用したことに関する課題は特になし。

石巻市立中津山第二小学校

住 所 石巻市桃生町中津山

字江下57番地

在籍数 107人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は内陸部にあり，東日本大震災では津波の影響こそ受けなかったが，地震による被害は甚大で，多くの家屋が倒壊するなどの被害を受けた。これは，地盤増幅度が2.52ということもあり，揺れに弱いことが影響している。また，旧北上川と新北上川に囲まれており，大雨時には，洪水による被害が想定される。校舎の3階以上か，徒歩15分以上の高台が避難場所となる。桃生地区の小・中学校と地区の自治組織，市防災担当部署，消防署等による地域防災連絡協議会を開催し，防災の協力体制づくりを進めている。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 引渡し	5/1 想定：14時10分に震度5強の地震が発生。その後，保護者へ児童を引き渡すことが決定される。
地震 (下校時)	6/20 想定：授業時間に震度5強の地震が発生する。 ※集団下校の際に実施
地震 原子力	9/4 想定：午前9時35分，緊急地震速報を受信。10秒後に震度6強の地震が発生。校庭への二次避難後，女川原子力発電所2号機が故障により緊急事態になる。
地震 洪水	9/21 想定：大雨洪水警報発令の中，午前9時35分に巨大な地震が発生。雨天のため，体育館へ避難する。さらに大規模な洪水発生のが生じる。周辺の水位が上昇する恐れがあるので，校舎3階への緊急避難を行う。
火災	10/23 想定：午前10時42分に校舎3階家庭科室から出火し，延焼の恐れ。
不審者	11/22 想定：1校時終了間際に，刃物等を所持した不審者が1階西側職員玄関より校舎内に侵入する。職員室には教頭，教務，事務，養教，用務員が在室。支援員は1，2年生教室で指導中とする。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要【地震原子力・授業時間・予告あり】

想定：1校時授業中（午前9時35分）、緊急地震速報を受信。10秒後に震度6強の地震が発生。その場で各自避難行動（一次避難）をとる。放送や職員の指示により校庭への二次避難を行う。その後、女川原子力発電所2号機が故障による緊急事態となり、校舎への三次避難を行う。

① 事前指導等

業前の「防災タイム」で石巻市防災副読本「未来へつなぐ」を活用し、地震が起きた際の避難の仕方や、原子力災害について確認をした。特に原子力については学年の発達段階に応じて指導・注意を行った。



教室での一次避難

② 訓練の取組状況

1校時授業中（午前9時35分）に震度6強の訓練地震が発生。緊急地震速報受信機の警報により、児童は自分の机の下にすばやく潜り、避難行動をとった。揺れが収まった後、放送を静かに聞き、担任の指示で校庭への避難を開始した。その後原子力発電所での故障を受け、緊急事態となり校舎への屋内退避（三次避難）を行った。



校庭への二次避難

③ 事後指導

放送を使った全体指導の後、各教室に戻り、各自がどのような避難行動をとれたか、振り返りを行った。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報受信機を活用した訓練を多く行ってきたので、子どもたちは地震が来るまでの数秒を有効に使い、より安全な場所で身を守る行動が身に付いてきた。
- 各教室に配備されているトランシーバーを使い、停電時を想定した訓練を行っている。教職員の使い方も徹底されており、情報伝達が正確に行われている。
- 原子力災害の想定が徹底されていなかったため、カーテンを閉める際に薄手の物だけで済ませてしまい、厚手のカーテンを閉めなかった場面があった。何のための原子力災害対応か、再度研修を深めていきたい。

石巻市立鮎川小学校

住 所 石巻市鮎川浜清崎山1番地1
在籍数 9人

1 学校の概要（学校防災面）

校地は海拔80m以上の高台に位置しており震災時も津波による浸水はない。東北電力女川原子力発電所より約11kmの距離にあり、原子力災害時にはUPZ避難指示区域となる。学区である鮎川浜は津波浸水想定によると、5m～10mの浸水予想となっている。また、通学路が土砂災害警戒区域となっているため、注意が必要である。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/28 想定：午前10時40分、牡鹿半島東方沖を震源とする地震発生。地震の規模はM8、震度6強。校舎倒壊の恐れあり。倒壊を考慮し、校庭への避難を行う。その後、津波警報発表。校舎の安全を確認し、校舎へ避難。その後津波警報が解除されたため、引き渡しを実施。
地震	11/1 想定：清掃時間中に震度5強の地震が発生することを緊急地震速報システムから放送される。児童は、それぞれが安全な場所を判断し、一次避難のみを行う。
地震 原子力	11/22 想定：午前10時10分、震度6強の地震発生。その後、女川原子力発電所で事故が発生したという連絡が入り、建物内に避難する。
地震	1/12 想定：震度5強以上の地震が発生することを緊急地震速報システムから放送される。児童それぞれが安全な場所を判断し、一次避難のみを行う。予告無しで行い、校長・教頭以外は発生時間も分からない状況で訓練を行う。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・普段から「自分の命は自分で守る」といった意識をもつとともに、いざというときに自分の判断で具体的な行動が取れるようにするため、児童携帯防災マニュアルを作成する。

② 訓練の取組状況

- ・地震想定・引渡し訓練では、緊急地震速報受信機を作動させ、警報音を鳴らしたところ、児童は速やかに第一次避難を行うことができた。校舎に危険があるとの放送により校庭へ二次避難を行った。あせらず慎重に避難する様子が見られた。津波警報が発表された想定で校舎3階に避難し、その後、保護者にメールを送信し、引き渡し訓練を行った。誰に引き渡したのか、どこに避難するのかを名簿とともに確認しながら引き渡しを行った。保護者の協力もあり、スムーズに訓練を行うことができた。
- ・清掃時間中の地震想定避難訓練では、緊急地震速報受信機の警報音が鳴ると同時に、各教室の机の下に隠れたり、ダンゴムシのポーズで頭を守ったりして、すばやく身を守ることができていた。

③ 事後指導

- ・地震想定・引渡し訓練では、校舎内への第三次避難が終了したところで、警報音の後の行動、校庭や校舎内への移動について、校長の全体講評を聞き、振り返りを行った。
- ・清掃時間中の地震想定、原子力防災訓練では、児童が取った避難行動の妥当性を「4つの『ない』」に当てはまっていたのかという視点で確認を行った。



引き渡し訓練



地震想定避難訓練



「4つの『ない』」

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 児童は慌てずに素早く落ち着いて避難することができた。
- 校舎内の安全確認を迅速に行うことができた。
- 階段付近で緊急地震速報システムの放送を聞いた児童が、より安全な場所へ向かおうと、廊下、教室内へ移動し机の下に避難していた。実際に震度5強以上の地震が発生した場合、歩いて移動するのが困難な場合もあるので、その場で「4つの『ない』」を確認して身を守ることができるように指導したい。

石巻市立住吉中学校

住 所 石巻市東中里三丁目3番1号

在籍数 206人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、市の北東部に位置し、旧北上川の懐に抱かれた平坦地である。また、学区の大部分は低地であり、地形図からは、本校は、氾濫平野にある。

東日本大震災により地域のほとんどが冠水し、被害を受けた地域である。当時避難所であった本校には、最大2100名が避難していた。

地域や保護者は一般に教育熱心で、学校に対しても協力的である。平成30年3月に本校は、日本セーフティプロモーションスクール（SPS）協議会より、教職員、生徒、保護者、地域の人々が協働して学校安全推進の取り組みを展開するSPS認証校に認定された。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	<p>4/17 想定：6校時の授業中に宮城県沖で震度5強以上の地震が発生し、緊急地震速報が流れる。一次避難から即、津波警報が発表された場合を想定し、すぐに3次避難をとる流れとして実施。</p> <p>6/5 想定：緊急地震速報が流れた際の一次避難の訓練（校庭には避難しない）。また、今回の避難訓練では、「本震の後、余震が何度か起きる」と、「クラスにけが人が出る」ことを改訂ポイントとして取り入れ、より実践的で、実効性の高い訓練とした。</p>
火災	<p>11/24 想定：授業中に震度5弱以上の地震が発生し、緊急地震速報が流れる。その際、1階東側ボイラー室から火災が発生し、校庭へ緊急避難。また、消防署員より講話と初期消火訓練も実施。</p>
その他	<p>7/12 想定：帰りの会中、朝から降り続いた大雨により「北上川の堤防が決壊の恐れあり」と発表される。生徒の安全を考え、校舎4階へ避難。また、生徒1名を垂直避難途中で抜いたが、担任は知らず、学年主任のみが知っている設定で実施。</p> <p>11/5 想定：自然災害により、車による引き渡しが必要となり、生徒を保護者に引き渡す時の流れと動き（教員・生徒・保護者）を確認する。石巻市総合防災訓練の午後の部として実施。</p> <p>11/13 想定：宮城県沖で震度6弱の地震が発生し、炉心損傷により原子力発電所から放射性物質が放出。防災行政無線及び緊急速報メールで連絡を受け、全校放送で屋内退避の指示。</p>

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・4/17の6校時に各学級で担任が1年間の防災学習のオリエンテーションを行い、そのねらいである「自他の命を守る力を身に付けること」への理解を深めさせた。また、本校で独自作成した大河ノート（生活のしおり）にある安全・防災資料を活用しながら、避難訓練の避難経路等の事前指導を行った。

② 訓練の取組状況

- ・6/5の6校時に行った緊急地震速報による避難訓練は、より実践的な訓練にするために、緊急地震速報の報知音の度に、机の下に入る訓練をした（余震の回数を生徒には伝えないで実施）。

また、事前に学年の1クラスにけが人を設定した。教員と生徒が協力しながら、けが人の対応をし、必要に応じて本部に応援を要請しながら一次避難を行った。

③ 事後指導

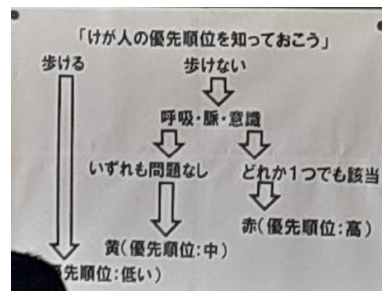
- ・避難訓練終了後、クラスごとに担任が事後指導を行った。生徒の振り返りは次の通り（一部抜粋）。「以前の避難訓練では災害時のけがについてはあまり分らなかったが、今回初めて地震が起きた時、けがした人の優先順位を色で分けるのが分かった。」「余震のある避難訓練は初めてだったので勉強になったし、正直、すごく大切なことなのにどうして今までやらなかったのだろうと思った。今回のようにどんどん改善して行ってほしい。」

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 教職員と生徒が協力して命を守り抜く、主体的・対話的で深い学びのある訓練ができた。生徒を管理する訓練から、生徒一人一人が「自分がすべきこと」「困った状況の人はいないか」を絶えず考え続ける訓練へと、今後さらにシフトしていく必要がある。
- 教員の役割がきちんと決まっている訓練ではなく、役割をあまり決めずにそれぞれが考え、適切な対応をするための訓練ができた。また、どれだけ早く避難するかではなく、より安全に避難するための訓練ができた。
- 余震あり（緊急地震速報を繰り返し流す）のスタイルはとてもよい。落ち着いた頃に余震の速報を流すと生徒は驚いていたが、実際に考えるとためになる訓練だった。
- 今回は学年の教員2人で訓練に臨んだが、けが人の対応に追われ、教室の生徒まで対応できなかった。実際に人手が足りないことも想定されるのでよい訓練となった。
- 生徒も協力して助け合うなら、教材室のヘルメットは教室に常備した方がよい。
- 各階に倒れた生徒を搬送させられる担架や台車、車が付いた椅子などがあるとよい。



防災学習オリエンテーション



けが人の優先順位カード

石巻市立北上中学校

住 所 石巻市北上町十三浜字小田93番地1
在籍数 44人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は旧北上町全域で東西に長く、通学範囲が広く、スクールバス通学の生徒は約3割、その他は保護者送迎が多い。そのため交通事故に対する注意が必要である。

校舎は高台にあるが、通学路が北上川や海岸線沿いの海拔の低い場所が多いので、津波等に対する意識を高めていく必要がある。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震・津波	6/2 想定：宮城県沖 マグニチュード9.0 震度6強 震災当時の講話（相川地区の保護者）
引き渡し	6/20 想定：地震発生に伴い、引き渡しを実施 ＊北上こども園、相川保育所、小・中学校合同での実施
不審者	7/11 想定：興奮状態になっている不審者への対応 河北警察署の協力
火災	10/25 想定：調理室から出火 初期消火と通報
市総合防災訓練	11/5 想定：地震・大津波・避難場所の確認 各種防災ブースでの体験学習 ＊小・中・支所・地区合同実施
原子力	11/16 想定：地震に伴い女川原子力発電所で異常が発生

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・地震発生時には、緊急地震速報が流れることや一次避難（その場で、ダンゴムシ、ヘルメット）を行うことを指導した。＝身の安全を確保する。
- ・揺れがおさまったら、状況に応じた避難行動をとることを指導した。



事前指導の様子

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報受信機を使って、職員室にいる教職員が発報した。
- ・生徒は教室で一次避難を行う。職員室内の教員も一次避難を行う。
- ・揺れがおさまったら、校長（教頭）の指示で校舎内外の被害状況を確認する。
- ・被害状況に応じた避難場所を決定し、教職員並びに生徒に伝える。
- ・安全を確認しながら二次避難を行う。原子力災害の二次避難場所を視聴覚室に変更した。
- ・職員室にいる教職員は非常持出袋を持つ。
- ・二次避難場所で人数確認と報告を行う。
- ・6月の訓練では、相川地区在住の保護者に「東日本大震災当時の北上の話」をしていただいた。自分たちの住んでいる地区での出来事に興味を持って聞くことができた。



二次避難場所での様子



小中合同水消火器訓練の様子

③ 事後指導

- ・校長からの講評の後、教室で石巻市防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用しながら振り返りを行った。
- ・北上地区の特徴を踏まえた災害の発生についても考えた。



小中合同引き渡し訓練の様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 地震を想定した訓練のときに緊急地震速報受信機を活用すると、生徒や職員の地震への対応の意識が高まった。
- 簡単に訓練の発報をすることができるようになった。
- 訓練用の発報を出すのに手間取ってしまった。訓練前に受信機の使い方（訓練用の発報の仕方など）を全職員で共通理解をしておく必要がある。機械の点検をした際に設定が変わっていないかなども含めて事前に動作確認をしておくようにしたい。
- 設定が複雑で変更しにくい。

石巻市立住吉小学校

住 所 石巻市住吉町二丁目4番27号
在籍数 94人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の中心部に位置し、旧北上川沿いの氾濫平野にある。近くの中里バイパス周辺は旧河道が伸びており、過去に浸水被害を幾度か受けている。

校地は海拔5メートルの平地にあり、周囲に山や崖等もないので、土砂災害等の危険はないが、川から数十メートルほどしか離れておらず、浸水被害を受けやすい場所と言える。



東日本大震災では、児童職員ともに、全員が校舎3階に避難し、無事だった。北上川からの汚泥を伴う水が押し寄せ、校舎1階の床上1メートルほどが浸水して1階は使用不能になった。一時は300人を超える避難者が、校舎3階で過ごすことになった。ボランティアの協力等で1階が復旧した後、避難所は1階図工室に移動し、翌年度の6月まで避難所が開設された。

近年の状況及び石巻市ハザードマップ等から以下のハザードが想定される。

- ・地震時には液状化の危険性がある。
- ・津波の際には、学区の大部分は1～3mの浸水が予想される。
- ・台風や集中豪雨の際には、学区の大部分が0.5m以上、中里バイパスの南側は3～5mの浸水が予想される。通学路のうち、元倉ガードは強い雨が降るとよく冠水する。
- ・女川原子力発電所から学校は、直線距離で約9kmの地点で、UPZ圏内である。
- ・令和4年5月宮城県より発表された津波浸水想定では、学校の最大浸水深が1m以上3m未満である。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/21 想定：授業中に震度5強以上の地震が発生し、校舎内の窓ガラスや壁の一部が破損した。安全確認により大きな損傷はなく、津波の襲来が予想されたため、3階視聴覚室へ避難することとする。 内容：1次避難：その場での避難行動 2次避難：3階視聴覚室へ
	9/5 想定：業間時に受信機が緊急地震速報を受け警報が作動する。次いで震度5強以上の地震が発生し、児童は自らの判断で第1次避難をする。その後、津波の襲来が予想されたため3階視聴覚室へ避難することとする。 内容：1次避難：その場での避難行動 2次避難：3階視聴覚室へ

火災	11/13 想定：家庭科室から出火し、初期消火を試みたが火の勢いは衰えず、校舎内に延焼する恐れがある。煙の広がり激しく、至急避難の必要性がある。 内容：1次避難：教室（出口の確保・ハンカチで口、鼻をふさぐ） 2次避難：校庭 体験：防火扉通過体験・煙道通過体験
その他	9/28 風水害（浸水）想定避難訓練 10/17 原子力災害対応訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 学級活動及び業前活動の「防災タイム」を利用して、実施日時以外の訓練内容を予告した。
- ・ 安全姿勢を取ることに加え、校庭・前庭では壁面や遊具から離れること、校舎内では落ちたり倒れたりする物から離れることを指導するとともに、教室以外の様々な場所にいることを想定し、どのような危険性があるかを考えた。

② 訓練の取組状況

- ・ 校内放送で緊急地震速報の訓練音を1分程度繰り返し流し、地震の発生を伝えた。
- ・ 児童はその場で避難行動を取った。図書室など特別教室にいた児童をはじめ、特別支援学級の児童も落ち着いて行動することができた。
- ・ その後、2次避難として3階視聴覚室に避難した。



訓練時、2次避難場所にて

③ 事後指導

- ・ 各教室においてカードを使用した訓練の振り返りを行った。適切な避難行動が取れたかを確認した。
- ・ 学校以外で緊急地震速報を聞いた際の避難行動について確認した。

避難訓練振り返りカード

年 5 組

自分の役割の順子を振り返ってめあてよう。
次の記録のめあてをしっかり立てておきましょう。
【◎よくできた、○できた、△もう少し、×できなかった】

項目	記録	めあて	1人1組	2人1組	3人1組	4人1組	5人1組	6人1組	合計
1. 避難の準備が整った。									
2. 避難の準備が整った。									
3. 避難の準備が整った。									
4. 避難の準備が整った。									
5. 避難の準備が整った。									
6. 避難の準備が整った。									
7. 避難の準備が整った。									
8. 避難の準備が整った。									
9. 避難の準備が整った。									
10. 避難の準備が整った。									
11. 避難の準備が整った。									
12. 避難の準備が整った。									
13. 避難の準備が整った。									
14. 避難の準備が整った。									
15. 避難の準備が整った。									
16. 避難の準備が整った。									
17. 避難の準備が整った。									
18. 避難の準備が整った。									
19. 避難の準備が整った。									
20. 避難の準備が整った。									

※年々できるようになったこと、良かったこと

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 適切な避難行動について改めて確認することができた。
- 校長が不在だったが、指揮連絡系統が滞りなく機能した。
- 緊急地震速報受信機の使用方法等について共通理解を図る研修を実施する。

避難訓練チェックカード

石巻市立貞山小学校

住 所 石巻市貞山五丁目3番1号

在籍数 171人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、洪水ハザードマップによると、予想浸水深は0.5～3mであり、風水害発生時は、学区のほとんどが冠水することが予想される。

津波ハザードマップによると、予想浸水深は、0.5～3mであり、学区内のすべての地域が浸水域に入る。

浸水の継続時間は想定最大規模で1日～3日未満となっている。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/20 想定：三陸沖M9.0，石巻市内最大震度6強，地震直後に東北地方太平洋沿岸に大津波警報発表，電気・ガス・水道等ライフライン機能停止
	9/1 想定：三陸沖M9.0，石巻市内最大震度6強，地震直後に電気・ガス・水道等ライフライン機能停止
	11/5 想定：東北地方太平洋沖M9.0，石巻市内最大震度6強，地震直後に東北地方太平洋沿岸に大津波警報発表，住宅倒壊，道路の陥没，電気・ガス・水道等のライフライン機能停止
火災	11/20 1階職員室より出火（火の不始末のため） 天候晴れ，北西の風，風力5
その 他	6/9 不審者・引き渡し訓練
	7/6 洪水・浸水避難訓練（業前）
	2/8 原子力災害避難訓練（業前）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 日時について，前もって知らせておく。
- ・ 地震が起きたら安全な場所に避難する。
(落ちてこない，倒れてこない，移動してこない)

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報受信機で地震発生を知らせる。
- ・ 緊急校内放送により地震の情報を伝える。
- ・ 途中で放送が使えなくなる。
- ・ 「落ちてこない，倒れてこない，移動してこない」場所で自分の身を守らせる。
- ・ 揺れが収まったら防災頭巾を着用させる。
- ・ 経路の安全確認を行った後，拡声器で各階に校庭への二次避難を指示する。
- ・ 学級の人数を確認し，異常の有無を教頭に報告する。
- ・ 本部の情報収集により大津波警報が発表されたことを受け，3階までの避難経路を確認する。
- ・ 大津波警報の発表と3階への避難指示が出る。3階の避難場所に学年ごとに避難する。
- ・ 人員確認と報告を校長に行う。
- ・ 放送により避難解除を知らせる。
- ・ 大津波警報対応の訓練を終了し，避難所である石巻工業高校への避難訓練を行う。
- ・ 校庭に6年生と1年生，5年生と2年生，4年生と3年生が隣り合って並び，上学年が下学年の手を取って避難する。

③ 事後指導

- ・ 避難訓練の意義，避難場所と避難経路を確認する。
- ・ 避難行動についての振り返りを行った。
- ・ 「石巻市防災教育副読本」を活用し，地震，津波の被害について学習する。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 地震→津波という流れが現実的で，避難所まで行く設定もよい。
- 緊急地震速報の音源を流したことで緊張感をもって訓練に臨むことができた。
- 避難経路上にある普段使用しないドア（中央玄関，東昇降口）の開閉状態やストッパーの有無について事前確認をする。
- 二次避難以降，児童を整列させた後は担任が学級の前にいた方がよい。
- 三次避難で混雑が見られたので3～6年の避難経路を見直す。



一次避難の様子



校庭への二次避難の様子



副読本を活用した事後指導の様子

石巻市立鹿又小学校

住 所 石巻市鹿又字矢袋屋敷合 3 1 番地
在籍数 3 0 7 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市河南地区東部に位置し、北側と東側に旧北上川が流れている。国道 4 5 号線と三陸自動車道が学区の東側を縦断している。東日本大震災では、校舎や備品等の一部破損があったものの津波による被害はなく、避難所として沿岸部からの人々の受け入れを行った。また、震災以降、学区西側と南側を中心に宅地開発がなされ、児童数は増加している。



学校単独の避難訓練を月に 1 回程度実施しているほか、鹿又保育所と河南東中学区（河南東中・須江小・和渕小）と連携して引き渡し訓練を実施している。災害に備え、保護者・地域・関係諸機関との一層の連携づくりに取り組んでいる。

2 令和 5 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/20 想定：授業中に震度 5 強の地震発生（緊急地震速報）。 ・机の下に一次避難（対応行動）。 5/12 想定：授業中に震度 5 強の地震発生（緊急地震速報） ・机の下に一次避難（対応行動）。 6/16 想定：休み時間に震度 5 強の地震発生（緊急地震速報）。 ・各場所（教室、廊下、校庭等）に一次避難（対応行動）。 9/12 想定：休み時間に震度 5 弱の地震発生（緊急地震速報） ・各場所（教室、廊下、校庭等）において一次避難（対応行動）。 10/11 想定：休み時間に震度 5 弱の地震発生（緊急地震速報） ・各場所において一次避難（対応行動）。 2/ 7 想定：清掃中に震度 5 強の地震発生（緊急地震速報）。 ・各場所（教室、廊下等）に一次避難（対応行動）。
火災	11/15 想定：授業中に火災発生。 ・ 3 階理科室より出火、校庭に避難。 12/ 6 想定：休み時間に火災発生。 ・ 1 階職員室より出火、校庭に避難。
その 他	4/25 想定：北上川堤防決壊。 ・北上川堤防が決壊し校舎 3 階に避難。 7/ 14 想定：不審者が校舎内に侵入の恐れ。 ・各教室に避難。 11/22 想定：原子力災害が発生。 ・屋内（校舎内）退避。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 避難訓練の意義，めあてを周知する。
- ・ 緊急地震速報の警戒音を実際に聞かせる。
- ・ 緊急地震速報が流れた時の対応行動を指導する。
- ・ 防災頭巾をかぶることを指導する。
- ・ 2回目以降は，前回の反省を踏まえ，指導する。



【対応行動（休み時間中）】

② 訓練の取組状況

- ・ 授業時間（休み時間，清掃時間）に緊急地震速報を流した。
- ・ 速報の警戒音が流れると，児童は動きを止め放送に耳を傾け，すぐに対応行動を取った。
- ・ 自分の教室にいた児童は，防災頭巾を手に取り，机の下に潜り一次避難した。
- ・ 教室以外で対応行動を取る際は，その場に合わせた避難行動を取っていた。

③ 事後指導

- ・ 学校統一の振り返りカードを活用し，避難の様子について自己評価をするとともに，学級で振り返りを行った。
- ・ 実施した想定以外の避難についても学年に応じ，具体的に考えさせた。
- ・ 学校外の場所についても，具体的な場面を想起させて，地震が発生した場合の危険回避，避難行動を考えさせた。



【対応行動（休み時間中）】

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報が流れると迅速かつ安全に避難することができた。
- 縦割りでの避難訓練を実施することで，上学年は下学年へ声を掛けながら避難行動する姿が見られた。
- 緊急地震速報受信機を活用した訓練と合わせて，学校外での避難行動を指導することにより災害時の避難の理解が深まった。
- 授業中，業間等，いくつかの場面想定をし，訓練を行っているが，今後も多様な想定の下で，避難行動ができるよう，継続して指導していく。
- 職員側も多様な場面に対応できるよう，更に研修の機会を設けていく。

石巻市立大原小学校

住 所 石巻市大原浜大光寺 1 番地

在籍数 14人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、牡鹿半島の先端部を占める旧牡鹿町の南西部に位置している。学校は、海までの距離が近く、海底が震源となる震度の大きい地震では津波襲来の恐れがある。東日本大震災では、学校の西側10mまで浸水している。大雨が降ると、背後の大草山一帯は土砂災害危険区域となる。県道石巻鮎川線は強い雨で冠水することが多い。また、女川原子力発電所からは、7km30km圏内であり、準UPZ（緊急時防護措置を準備する区域）となっている。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/11 想定：震度5強の地震が発生し、大きな余震が続く恐れがある。大津波警報が発令されたため、第三次避難場所に避難する。 内容：①第一次避難（教室） ②第二次避難（校庭防災倉庫前） ③第三次避難（学校東側大草山斜面空き地）
	6/9 想定：震度5強の地震が発生し、放送機器が使えない。今後も大きな余震が続く恐れがある。 内容：①緊急地震速報受信機による放送 ②第一次避難（休み時間にいた場所で） ③第二次避難（校庭防災倉庫前）
火災	11/24 想定：2時間目が始まってすぐ、1階理科準備室から出火したため校庭に避難する。校長不在、放送機器使用不可の想定。 内容：①非常ベルを鳴らす。②避難指示の放送を聞く。③校庭に避難をする。④校庭に整列する。⑤初期消火体験をする。
その他	7/4 【防犯訓練】 想定：不審者が昇降口から侵入したため、体育館に避難する。 内容：不審者に職員が対処する。児童は、放送の指示により、体育館に避難する。警察官が不審者役となり実施。
	9/8 【土砂災害想定】 想定：大雨により土砂災害の危険が想定されたため、引渡し訓練を行う。（実際に引渡しは行わない） 内容：①校長講話②職員打合せ（引渡し決定）③引渡し準備

	④事後指導
9/11	<p>【引き渡し訓練】</p> <p>想定：大雨警報が発令され、大雨、それに伴う土砂災害の発生等が予想される。</p> <p>内容：①保護者に引き渡しのメール配信をする。②児童を2階ランチルームに集合させ、トランシーバーにより連携を図り、昇降口にてドライブスルー形式で引き渡す。</p>
11/5	<p>【石巻市総合防災訓練】</p> <p>想定：震度6強の地震が発生し、大津波警報が発令され全市民に避難指示が発令した。</p> <p>内容：①第一次避難（各家庭） ②第二次避難（各地区集会所）</p>
11/7	<p>【原子力災害の対応】</p> <p>想定：震度6弱の地震が発生し、校内は停電していることを想定。その後、女川原子力発電所で緊急事態が発生したため、引渡しを行う。</p> <p>内容：①第一次避難（教室） ②第二次避難（校庭防災倉庫前） ③屋内退避（防災倉庫内の備品の持ち出し）④校長講話</p>

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・各教室に「お・し・か・も」のやくそく（「押さない」「しゃべらない」「駆けない」「戻らない」）を掲示し、常に確認している。



「おしかも」の教室掲示

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報受信機で、震度階級、到達秒数を放送する。
- ・児童は、放送を聞くと直ちにそれぞれの場所に定めた適切な避難行動をとっていた。
- ・第二次避難の指示で速やかに校庭に避難し、担任は、児童が整列後ただちに異常の有無を確認し、教頭に報告をした。



緊急地震速報受信機
「地震の見張り番」

③ 事後指導

- ・学級毎に教室で避難の仕方について振り返り、話し合いを行った。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 児童は教師の指示をしっかりと聞き、迅速な避難行動をとることができた。
- 上級生が下級生のサポートをしながら二次避難を行っていた。
- 避難指示の流れについて全職員で共通理解を図る必要がある（防災主任不在時を想定して）。
- 訓練がマンネリ化しないよう具体的な想定を立てるなど工夫していく。

石巻市立万石浦中学校

住所 石巻市流留字七勺21番地

在籍数 177人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、万石浦に面している地区と太平洋に面している地区に分かれており、東日本大震災では、太平洋に面している地区では大きな被害を受けた。津波の被害を受けなかった地区でも、震災後しばらくの間、冠水の被害を受けている。校舎には津波の被害がなかったため、避難所として震災直後は1000人の避難者が生活していた。学校再開後は10月まで体育館が避難所となった。



このような経験を踏まえ、今年度も石巻市総合防災訓練の際に、生徒と一緒に保護者も二次避難を実施したり、地域防災連絡会と連携し避難所開設訓練を行ったりした。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	<p>5/22 部活動中 宮城県沖でマグニチュード7.0、震度5強の地震が発生。それに伴い、津波が予想されることを想定した訓練を行った。事前に生徒には周知しており、各部活動ごとに一次避難に最適な場所を検討し、校舎3階への二次避難経路を確認した。</p> <p>9/15 授業中（緊急地震速報受信機活用） 宮城県沖でマグニチュード7.4、震度6強の地震が発生。それに伴い、高さ3m以上の大津波警報発令後、40分後に石巻沿岸への到達を想定した訓練を行った。教室にいない生徒や保健室を利用している生徒、けがをしている生徒などを想定した計画作成し、実施した。また、職員に詳細な計画は提示せず、対応をまとめた資料をのみを配布し、状況に応じた行動を判断して行動するよう促した。</p>
火災	<p>10/11 2階調理室（校舎東側）より出火したと想定し、初期消火にあたったが校舎内に延焼の恐れがあるために、昇降口前の駐車場に避難した。その際、けがや過呼吸など普通に避難できない生徒を想定して訓練を実施した。その後、石巻東消防署の署員の方の指導により、教員と生徒代表による水消火器を用いた消火訓練を実施した。</p>
その他	<p>11/21 不審者対応 宅配便を装った男性が校舎内に侵入し、教室に向かうという想定した訓練を行った。生徒は、校内放送の合図で教室にバリケードを作り、教員はさすまたや机などを活用し、不審者を生徒に近付けないような訓練を行った。</p> <p>2/5 原子力災害 女川原子力発電所で原発事故が発生。放射線物質が漏れだしたとの情報が石巻市から出されたことを想定した訓練を予定している。</p>

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・石巻市教育委員会作成の防災読本「未来へつなぐ」を使い、防災への理解を図った。その際に、一次避難・二次避難・三次避難の仕方、場所について確認をするとともに、緊急地震速報の仕組みと活用方法について、学級ごとに学んだ。
- ・震度5以上の地震発生の際に緊急地震速報が放送されることや、その場合における教室、廊下、校庭における退避行動について学級担任が指導した。

② 訓練の取組状況

- ・9月15日(金)緊急地震速報を活用して、担任以外の教科担当の授業中の訓練を実施した。主に一次避難から二次避難まで避難行動の流れについて確認した。
- ・生徒、教員は各自、活動場所で一次避難を行い、教務からの放送の指示で校舎3階への二次避難へと繋がったが、5分以内で避難を完了することができた。
- ・二次避難の際には、全体の講評を校長先生からいただいた。私語も少なく、概ね真剣に参加していた様子が見られた。

③ 事後指導

- ・「落ちてこない」「倒れてこない」場所など、事前指導で確認したことを踏まえて、教室以外の教室、校外、自宅にいる場合など、あらゆる場面を想定して、自らの命を守る方法等について考える場面を設けた。
- ・タブレットを活用し、振り返りアンケートを実施したり、地震災害に対する備えや避難の様子を確認したりしながら、緊急地震速報受信システムを活用した避難訓練の反省・自己評価を行った。
- ・緊急地震速報の警報音が鳴った際の行動について、いろいろな場面を想定しながら、各学級で協同学習として考えを共有した。



タブレットを活用した振り返りの様子

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 緊急地震速報に対し、素早く反応し対応することができている生徒が多かった。
- 校舎三階への二次避難もスムーズに行うことができていた。
- 昨年度の反省を踏まえ、過呼吸を起こした生徒への対応も想定した訓練を実施することができた。職員が臨機応変に対応する姿が見られた。
- 予告なしの訓練が実施できなかった。そのため、予告していない場合、生徒がどのような行動をとるのか確認することができなかった。次年度は確実に実施していきたい。
- 詳細な計画のもと避難訓練を実施しているため、職員が決まった動きになってしまっている。計画を見直し、どのような状況においても適切な行動がとれるような内容にしていきたい。
- 年度当初の訓練では、真剣さが感じられない生徒が見られた。東日本大震災から時間が経ち、震災を知らない世代になってきていると実感した。震災について伝える機会を設け、訓練の重要性について伝える機会を設けていかなければならないと感じた。

石巻市立飯野川中学校

住所 石巻市相野谷字旧会所前34番地
在籍数 81人



1 学校の概要（学校防災面）

校地は、平地にあり、標高は約1.8mである。校舎北側は崖になっている。近年、土砂災害は発生していないが、大雨と地震が重なった場合は、警戒が必要である。学校および学区の大部分は低地にある。学区の北側には山地があり、学区の南部は北上川（追波川）が流れている。

東日本大震災では、学区の一部で地震による地割れ、土地の隆起があった。また、川を遡上する津波の影響で学校周辺の住宅で床下浸水したところもあった。学校は、地震の影響で校舎の一部に亀裂が入ったところもあったが、建物に大きな被害はなかった。大震災当日から8月上旬まで避難所となり、最大で400名が避難した。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/14 想定：宮城県沖を震源とする大規模な地震が発生した。この地震のため各地で人的、物的被害が発生し、一方で沿岸部には大津波警報が発表された。
	5/30 想定：宮城県沖を震源とする大規模な地震が発生した。強い揺れが長く続き、今後も余震や津波の発生が予想される。生徒の安全を確保するため、保護者への引渡しを指示した。
	11/5 想定：宮城県沖を震源とする大規模な地震が発生した。（シェイクアウト訓練のみ）
火災	11/1 想定：6校時始業後、緊急地震速報受信機が鳴り、宮城県沿岸を震源とする震度6強の地震が発生する。合わせて停電も発生。数分後、地震は収束するが、校舎2階西側理科室より出火した。
その他	5/15 想定：早朝から降り続けている豪雨が原因で、「土砂災害特別警戒情報」が発表された。（ショート訓練）
	8/30 想定：早朝から降り続けている豪雨が原因で、北上川が氾濫する恐れがあり、「避難指示」が発令された。避難場所への徒歩での移動が危険と判断したため、校舎の3階以上に緊急避難を行う。（ショート訓練）
	1/16 想定：緊急地震速報が鳴り、震度6強の地震が発生する。その後、津波の心配はないと連絡が入るが、女川原子力発電所で全電源が喪失し、「屋内退避指示及び避難指示」が防災無線、エリアメール等で通達された。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・総合的な学習の時間で毎月11日に「防災の時間」を設定し、防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用して防災への理解を図った。
- ・特別教室や廊下等の状況を踏まえながら、災害等が起きた際の避難経路などについて意見を出し合い、考えた



3次避難で移動している様子

② 訓練の取組状況

- ・地震により通行不可の場所の設定や停電、火災発生等、様々な想定を組み込んだ。トランシーバーや拡声器を活用して連携し、速やかに避難することができた。
- ・学級担任だけではなく、教科担任が教室にいる想定で実施し、本部での教職員の役割を確認することができた。



体育館へ避難している様子

③ 事後指導

- ・安全確認後、全体講評を行った。
- ・防災教育副読本に振り返りを記入し、学級内で発表し合い、共有を図った。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- アクションカードを活用したことで、どの教員が本部の担当をしても速やかに実施することができた。
- 事前、事後の指導において、防災教育副読本を活用させたことで、訓練の必要性や行動の仕方を理解し、速やかに行動することができた。
- 緊急地震速報受信機を活用したり、様々な避難経路を想定したりと、より実践に近い訓練となり、緊張感を持って実施することができた。
- 生徒の搜索担当の教員は、声を出しながら搜索することを徹底していきたい。
- より実際の災害に近い想定で行えるように、生徒へ事前に想定の詳細は伝えなかったり、訓練を実施する時間帯を変えてみたりすることを検討していきたい。

石巻市立湊小学校

住 所 石巻市吉野町一丁目3番21号
在籍数 132人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は石巻市東南に位置しており、旧北上川が太平洋に注ぐ河口の東岸一体に広がっている。北東には牧山（標高218m）を中心とする山稜が連なり、平地は山稜の南側に東西に広がり、校舎は学区内平地の西側、海拔3mに位置している。

平成23年の東日本大震災の大津波で湊地区一帯は壊滅的な被害を受けた。本校も校舎1階天井まで浸水した。津波被害により、学校管理下外で児童4名が亡くなっている。当日から避難所となり、多くの方が避難生活をしていた。（最大避難者数1,400名）

学区にある多くの家庭は、家屋や職場、親族や知人が被災した経験をもつ。学区内に災害復興住宅があり、そこから通学している児童も多い。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/27 想定：宮城県沖を震源とする震度6の地震が発生した。その後、停電により放送機器が使えない状況の中、校庭に避難した。大津波警報が発表され、屋上に避難させることとした。 6/1 想定：震度6の地震発生後、大津波警報が発表された。津波到達時刻を考慮し、高台に避難することとした。 11/5 想定：石巻市総合防災訓練では、児童が在宅時に震度6強の地震が発生し、その後に大津波警報が発表されたため家族と決めた避難場所に避難することとした。
火災	11/22 想定：校舎西側家庭科室から出火、児童及び教職員は東側階段から校庭南側に避難した。
その他	4/12 避難経路の確認、5/26 大雨・浸水・冠水想定垂直避難訓練、合同引渡し訓練、7/3 不審者想定避難訓練、7/12 雷想定避難訓練、9/14 竜巻想定避難訓練、11/2 原子力防災訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 全児童が怖がらずに安全に外階段を使って屋上に避難できるかどうか学級毎に確認した。
- ・ 放送や教師の指示をしっかりと聞くことや物の落下、転倒、移動から身を守ることを発達段階に応じて指導した。



避難経路（外階段）の確認

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報受信機の訓練機能を使用し、校舎内の児童と教職員に地震発生を知らせた。
- ・ 受信機からの情報を落ち着いて聞き、一次避難として机の下で頭部を守る姿勢をとることができた。
- ・ これまで地震速報受信機を使用した訓練を3回（内ショート訓練1回）行ってきたがどの訓練にも真剣に取り組み、速やかに避難することができた。
- ・ 2月には、非告知訓練を行う予定である。



屋上避難の様子（講評）

③ 事後指導

- ・ 校長からの講評で「自分の命を守るためには、情報を逃さずに聞くこと」の大切さを伝えている。
- ・ 教員は児童と振り返りを行う中で正しい情報を聞いて判断することの大切さを繰り返し指導している。



高台避難の様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○成果

- ・ 事前指導を通して、地震（余震）や津波によって発生する危険について理解を深めることができた。
- ・ 緊急地震速報受信機や教師の指示を聞いて、迅速に避難することができた。
- ・ 担架を使用して実際に搬送することは日常的に少ないため、職員にとって、良い訓練になった。階段を通るときは狭くてぎりぎりの幅ということも分かった。

●課題

- ・ 停電想定のため放送機器を使用しなかった。口頭での情報伝達に時間差が生じ、2次避難の開始のタイミングが合わず、余震発生訓練時も教室で過ごした学級がありタイミングについて今後検討していく。
- ・ 地震は授業中に発生するとは限らないので、休み時間や清掃中等、様々な状況下で訓練を行う必要がある。その際に安全確保や安否確認をどのように行うべきか教職員と児童が落ち着いて行動できるように計画を見直していきたい。

石巻市立渡波小学校

住 所 石巻市渡波町一丁目5番22号

在籍数 303人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の東端、万石浦に臨む牡鹿半島の基部に位置している。東日本大震災では、国道398号線から南側の地区で甚大な被害を受けた。また、津波により校舎1階が浸水した。この影響により、平成23年度は、貞山小と山下中に間借りしての校舎で授業を再開。同年2学期から稲井中敷地内仮設校舎での生活を経て、26年4月より本校舎にて学校再開を果たすことができた。



【渡波小校舎全景】

今年度は、緊急地震速報受信機活用訓練を年間5回実施する。子供たちの訓練は、予告ありを3回、予告なしを2回とし様々な時間を設定して行う。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	6/29 想定：授業中に震度6強の地震発生，大津波警報発令。第一次避難は 11/5 各教室，第二次避難を屋上として避難。
火災	4/20 想定：業前に2階家庭科室から出火。校庭に避難。 11/15 想定：授業中，2階理科室から出火。校庭に避難。
その 他	6/23 不審者対応引き渡し訓練 授業中不審者が校舎内に侵入。第一次避難を各教室，その後，保護者へ引き渡しを行った。 5/9 7/10 9/7 10/12 1/24 緊急地震速報受信機活用避難訓練（業間，昼休み，清掃時間） 想定は，震度5強の地震発生。各自がそれぞれの場所で身を守る訓練を実施。 11/22 原子力災害訓練 原子力緊急事態となり，屋内避難指示が発令。全員屋内に避難。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・地鳴り（初期微動）や緊急地震速報が聞こえたら、「落ちてこない」、「倒れてこない」、「移動してこない」場所に避難することを指導した。
- ・教室、廊下、トイレ等の校舎内や校庭ごとの避難の仕方について指導するとともに、次に流れる校内放送をしっかりと聞くことを指導した。

②訓練の取組状況

- ・本校では、地震想定訓練時に本受信機を活用している。今年度は、休み時間や清掃時間中など授業中以外の時間帯に設定して行った。緊急地震速報（20秒後・震度5強）が鳴ると、しっかりと聞き、安全を確認後、避難行動をとることができた。
- ・地震後の津波想定とした。今年度は、新津波浸水深想定及び石巻市ハザードマップを受けて屋上への避難訓練を行った。教師の指示をしっかりと聞き「お、は、し、も」の約束を守って避難行動をすることができた。
- ・今年度よりトランシーバーを全学級に設置して避難訓練で活用することができた。

③事後指導

- ・緊急地震速報が流れたら安全を確認し、授業中は教師の指示で行動し、休み時間等自分で判断する時には「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所に避難することについて確認した。
- ・防災教育副読本（市教委版、県教委版）を活用し、避難訓練の参加について自己評価したり、自分の命を大切にしている心情を深めたりしながら防災意識を高めた。
- ・地震が起きたら次に津波が来ることを考え、命を守る行動について考えた。



【屋上への避難訓練】

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題 *：その他）

- 本受信機を使った避難訓練を昨年度の反省をもとに充実させ、教職員及び児童の防災意識を高めること、避難行動のスキルを高めることができた。
- 学校経営の基盤に安全・安心で楽しく信頼される学校を位置付けることで、教職員も安全・安心に気を付けることができた。



【防災学習（ダンボールベットづくり）】

- 「防災学習の日」（毎月11日に防災に関する指導を業前に実施）を実施しており、避難訓練の事前指導をその日にあてるようにした。防災教育副読本を活用し、各学年の実態に応じた指導をすることができた。また、事後指導でも防災教育副読本を活用し、振り返りを行うことができた。
- トランシーバーを効果的に活用した避難訓練が実施できた。
- 地域と連携した防災学習を行うことができた。
- 緊急地震速報受信機の操作方法について職員対象の講習会や研修会を企画したり、マニュアル等を作成したりして教職員で共通理解をする必要がある。また、今後は、管理職不在の想定など様々な想定での避難訓練を計画・実施していきたい。
- *今後も学校経営の基盤である「命を守り育てる」を大切にして、子供たちがさらに主体的に取り組めるよう様々な災害を想定した避難訓練に努めていきたい。

石巻市立万石浦小学校

住 所 石巻市渡波字境釜 1 番地 1

在籍数 238名

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、渡波地区の東部に位置し、小竹、佐須、祝田、万石町、塩富町（一・二丁目）、宇田川・後生橋、うしお町、垂水町、流留、表沢田、万石浦（一区、二区）の13地区と、旧荻浜中学校区からなっている。通学は徒歩又は保護者の自家用車による送迎であるが、祝田地区と荻浜等の一部児童は、通学時の安全を確保する市の事業により、タクシーで通学している。



2011年東日本震災では、沿岸部にあるにもかかわらず、本校舎は津波の直接的被害を受けなかったが、校舎内外の壁や床に地震によるひび割れなどが見られた。体育館は床が落ち、使用できなくなった。学区内の大部分は、地震による建物の倒壊などの大きな被害はあまり見られなかったが、湾に面した一部の地区で浸水が見られた。当時の在校生のうち、保護者に引き渡した後、避難する途中で2名の児童が津波により亡くなっている。

近年の状況および石巻市ハザードマップ等から次の点に注意している。

- ① 震災により1m程度地盤沈下したため、大雨や津波による浸水や冠水箇所が拡大した。
- ② 令和5年8月に改訂された津波浸水想定により、本校校庭も最大で82cmの浸水が想定されることになった。
- ③ 表沢田、塩富町、祝田地区は、大雨が降ると冠水する箇所が多い。
- ④ 学区内に土砂災害警戒区域があり、大雨が降ると危険性が高まる。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4 / 13 緊急地震受信機を使った避難訓練
	5 / 2 地震・津波・原発事故想定避難訓練 津波警報発令想定引渡し訓練
	9 / 27 休憩時地震想定避難訓練
	11 / 5 石巻市総合防災訓練 第1部 石巻市一斉シェイクアウト訓練参加 第2部 各家庭で定めた避難場所への移動体験 第3部 各学級学年での防災学習 第4部 小中連携引渡し訓練
火災	10 / 19 火災想定避難訓練
その他	11 / 8 不審者侵入想定避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

4月13日業前活動の時間に緊急地震速報受信機の音源を活用した避難訓練を行った。



防災頭巾を被り廊下に整列する児童

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・低学年はしっかりと放送を聞き、どんな指示が出ているのかを確認する意識をもつこと、中学年・高学年は校舎内にいるときにそれぞれ20秒間のうちに身の安全を確保できるよう事前指導を行った。
- ・防災頭巾の正しい被り方や机の下に避難した時の脚の押さえ方等についても指導した。
- ・揺れが発生している時は、教職員自身も自分の安全の確保をすることについても確認した。

② 訓練の取組状況

- ・訓練放送を聞くと、教員の指示の前に第1次避難を行う児童が多く、自ら命を守ろうとする意識が高いことが確認できた。ほとんどの児童が落ち着いて行動することができていた。



全員が確実にかつ安全に避難

③ 事後指導

- ・学級ごとに訓練から学んだことを振り返る場を設定した。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 児童は、緊急地震速報に驚くことなく冷静に避難行動をとっていた。
- 早い時期に訓練を実施したことはよかった。
- 防災意識を高めていくために訓練を行う日にちだけ伝え、速報がなる時間帯は事前に教えない訓練も必要である。今後、予告なしの訓練も検討していく。
- 年度スタート直後の時期ではあるが、児童への事前指導をしっかりと行うことは大切である。
- 大津波警報が出た時の避難場所を改めてマニュアルで再確認しておくことが必要である。

石巻市立大谷地小学校

住 所 石巻市小船越字角田 1 6 番地 2
 在籍数 1 0 3 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、平地にあり、校舎周辺は水田や耕作地帯となっている。学区が広いため児童は、送迎または、地区ごとに自転車で通学している。2011年の東日本大震災では、校舎及び学区に大きな被害はなく、被災した住宅は数件であった。校舎周囲には崖等もないので、土砂災害の危険もない。ただし、校舎及び学区が、ハザード



ドマップ津波・洪水に関する想定で3～5m浸水域にあり、2階建ての本校校舎では、これに耐えうることができないため、北上川の氾濫、堤防決壊の恐れがある場合は、3次避難場所である「沢田山」へ避難することとなっている。しかしながら、3次避難の判断が難しい校舎立地のため、本校では、地域と共に避難行動について協議を進めているところである。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4 / 13 想定：震度6弱の地震避難訓練
	5 / 1 想定：下校時に揺れを感じた時の退避、避難行動の確認
	5 / 2 想定：震度6弱、3次避難沢田山避難訓練
	5 / 30 想定：引渡し訓練、河北地区幼保小中合同訓練
	11 / 5 石巻市総合防災訓練
	2 / 28 想定：震度6弱、女川原子力発電所に異常(本校UPZ範囲) Jアラート確認
	1 / 23 想定：児童予告なし、休み時間、緊急地震速報活用
	2 / 9 想定：震度6弱、女川原子力発電所に異常(本校UPZ範囲)
火災	11 / 14 想定：校舎1階理科室より出火、消火訓練、担架活用
その他	12 / 14 想定：防犯カメラ活用、不審者対応、教室施錠、警察署講話

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・防災タイムを活用し、地震に関する避難行動の確認を学級で行った。
- ・避難が必要となった場合の場面(場所、時間、季節等)に応じた持ち物、服装等児童の発達段階に応じて指導を行った。
- ・児童に「報知音が聞こえたら地震が起きる」ということを認識させ、速やかに退避行動ができるように指導をしている。
- ・防災副読本を活用し、地震が発生した場合の安全な避難の仕方について指導した。児童は「お・は・し・も」を守って避難することを意識し、安全に退避行動することにつながっている。



机の下への第1次避難

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報を流し、児童に1次避難を呼び掛けた。児童は報知音が聞こえると、速やかに机の下に潜り、静かにその後の指示を待つことができた。
- ・誘導の指示に従い、校庭への第2次避難、さらに近隣の高台である沢田山への第3次避難を実施した。縦割りペアを組み、安全に沢田山へ避難を行った。
- ・第3次避難場所である沢田山老人憩いの家の設備などについて見学も行った。その際、地区長さんにも講話などの御協力をいただいた。11月5日の石巻市総合防災訓練にもこの取組が活かされた。



沢田山への第3次避難

③ 事後指導

- ・訓練当日の行動等の振り返りを行った。
- ・学校で大きな地震が起きた場合は、放送や教師の指示に従い、速やかに退避行動をとるよう指導した。また、地震発生後停電になった場合の退避行動についても確認を行った。
- ・学校以外の場所で地震が起きた場合は、地震に関する警報音が複数あることを確認し、その場に応じて、自ら考えて行動するよう指導を行った。



沢田地区長さんのお話

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 避難訓練時に緊急地震速報の報知音を使用することで、児童は「この音は地震が起きる」ということを意識し、1次避難の習慣付けを図ることができた。
- 避難場所になりうる老人憩いの家の中を見学させていただくなど、地域と連携して取り組むことができた。
- 校舎内2階や体育館の天井ガラスなどを考慮した経路の確認、沢田山への避難決定のための情報収集など、慎重に検討していく。

石巻市立和渚小学校

住 所 石巻市和渚字佐沼川200番地
在籍数 72人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、南北に約5km、東西に約4kmであり、学校から最も遠い地区の児童は自転車で約30分かけて登校している。

校舎は平成18年完成で、耐震構造であり倒壊等の危険性は低い。体育館は昭和49年完成で、床の傾き、一部窓の開閉不可、照明器具等の落下の危険性がある。校地の東側約100mに北上川が流れており、洪水の危険性がある。西側には田畑が広がっており、地盤が頑強でなく、地震時には地割れや地盤沈下の危険性がある。



東日本大震災では、地震による被害が大きく、学区内の家屋は全・半壊が多数、マンホールの隆起や道路の陥没が数箇所あった。また、北上川は津波が遡上し、約150cm水面が上昇した。校舎内外に大きな被害はなかった。体育館には数日間地域住民が避難していた。

防災教育の面では、「総合的な学習の時間」において、3年生「安全な避難」、4年生「洪水災害を調べよう」、5年生「安全な場所への避難の仕方を考えよう」、6年生「災害時の対応を考えよう」の単元を設定し、4年間を見通した課題学習を設定している。

防災教育の面では、「総合的な学習の時間」において、3年生「安全な避難」、4年生「洪水災害を調べよう」、5年生「安全な場所への避難の仕方を考えよう」、6年生「災害時の対応を考えよう」の単元を設定し、4年間を見通した課題学習を設定している。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/12 想定： 学校生活中に石巻市内で震度6弱を観測する地震が発生し、児童を保護者へ引き渡す必要が生じる（引渡し訓練も実施）。
	9/6 想定： 休憩時に石巻市内で震度5強の揺れを観測する地震が発生し、地震により校舎内が停電になる。校長、教頭は不在である。
	1/24 想定： 休憩時に石巻市内で震度5強の揺れを観測する地震が発生し、校舎内で通行できない場所が発生する。
火災	10/25 想定： 校舎3階の家庭科室から火災発生。延焼の可能性があるため、避難させる必要が生じる。
地震 原子力 災害	10/30 想定： 石巻市内で震度6弱を観測する地震が発生し、女川原子力発電所の施設に事故が起きた。その後、石巻市災害対策本部より屋内避難の指示が入る。
その他	6/27 想定： 授業中に、不審者が昇降口付近を徘徊する。職員室にいる職員が対応中に、言動などから不審者と判断し、対応する職員を増員すると共に児童に被害が出ないようにする。 シェイクアウト訓練の音源を活用しての避難訓練を4回実施する。
	4/28 想定： 業前に石巻市内で震度5強の揺れを観測する地震が発生した。
	9/1 想定： 業間に石巻市内で震度5強の揺れを観測する地震が発生した。
	9/22 想定： 昼清掃中に石巻市内で震度5強の揺れを観測する地震が発生した。
	1/15 想定： 業間に石巻市内で震度5強の揺れを観測する地震が発生した。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

5月12日（金）

学校生活中に石巻市内で震度6弱を観測する地震が発生し、児童を保護者へ引き渡す必要が生じる。

① 事前指導等

- ・ 児童に対し、地震が発生したらどのように対処するか様々な想定を考えて指導した。
- ・ 職員は、事前にシミュレーションを行い、避難誘導の動きや避難経路、引渡しの手順を確認した。
- ・ 1年生は、初めての避難訓練だったので、避難経路を事前に歩いて確認した。



校庭へ避難する様子

② 訓練の取組状況

- ・ 一次避難の際、児童は、机の下に避難したり、低い姿勢で頭を守る姿勢をとったりするなど、身の安全を確保することができた。
- ・ 二次避難の際「お・は・し・も」の約束を守り、安全に校庭へ避難することができた。
- ・ 集合場所では静かに待つことができた。



校庭に避難している様子

③ 事後指導

- ・ 各自がどのような避難行動をしたか振り返った。また、避難の指示をしっかりと聞くことができていたかについて確認した。
- ・ 職員は、各自の避難行動や指示、誘導が適切であったか振り返り、後日、職員会議において共通理解を図った。



引き渡し訓練の様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報の音が鳴った時点で、放送による指示をよく聞こうとする態度が養われているため、緊張感をもって訓練に取り組むことができた。
- 河南東中学校区の小学校、保育所で引渡し訓練を行った。事前に通行方法の周知を図ったため学校周辺は交通渋滞なく実施することができた。
- 今年度は、各避難訓練の日時を職員、児童に周知して実施した。来年度は、発災時に備え、予告なしの避難訓練の実施を検討したい。

石巻市立湊中学校

住 所 石巻市湊東一丁目 1 3 番地 1

在籍数 5 1 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧北上川の東側に位置し、西は日和大橋、新内海橋、石巻大橋によって市街地と結び、東は渡波地区に隣接し、南は太平洋、北には避難場所となる牧山につながる大門崎公園がある。

東日本大震災では、6 mを超える大津波で校舎 1 階天井まで浸水被害が及んだ。そのため、石巻中学校での間借り生活を経て平成 2 6 年 3 月まで中里小学校内仮設校舎で過ごし、同年 3 月 1 5 日に本校舎へ戻ることができた。



2 令和 5 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	<p>5/17 想定：部活動時、宮城県沖を震源とする地震が発生。揺れが大きく津波注意報等の発表が心配されるため、職員駐車場への二次避難を行い、高台への三次避難に備えた。</p> <p>6/ 6 想定：宮城県沖を震源とする M8.0、石巻の最大震度 7 の大地震が発生。学校周辺でも家屋の倒壊や地割れ等の被害が出ていると予想される。校舎は耐震構造のため倒壊の危険は無く、校内巡視をしても危険は認められなかった。しかし、宮城県沿岸全域に大津波警報が発表されたため、高台への避難を要する状況となった。</p> <p>9/26 想定：宮城県沖を震源とする地震が発生。揺れが大きく津波発生が心配されるため、屋外への二次避難を行い、高台への三次避難に備えた。</p> <p>12/14 想定：宮城県沖を震源とする地震が発生し、即時に大津波警報が発表された。津波到達時刻までの時間がわずかであるため、校舎 4 階へ垂直避難した。</p>
火災	<p>10/31 想定：校舎南 1 階給湯室から出火。校舎全体に延焼の可能性があるので、全校生徒に屋外への避難を指示した。</p>
その他	<p>〔保護者引き渡し訓練〕</p> <p>5/26 想定：前日からの大雨により昼過ぎに「旧北上川決壊の恐れあり」と発表。6 校時開始時点では天候は回復し、「決壊の恐れ」は解除。しかし、学区内に複数の冠水箇所があり、徒歩での下校は困難と予想。近隣の学校と協議し保護者引き渡しでの下校を決定。</p> <p>〔大雨・洪水想定避難訓練〕</p>

	7/10 想定：朝から降り続いた大雨により、「旧北上川氾濫の恐れあり」と発表。本校も浸水想定区域にあることから、生徒の安全を考え、校舎2階以上への垂直避難を決定・指示した。
--	--

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 防災タイムを活用し、地震と津波をテーマとした学習を行い、下記の点について確認・指導した。

→校舎内の避難経路及び三次避難先への避難経路

→訓練に臨む態度について

→避難の仕方と三次避難後の行動について

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報の音源を使用。
- ・ 津波想定での三次避難訓練では、どの学年の生徒も真剣に臨み、素早く避難行動をとることができた。
- ・ 教職員はトランシーバーを用いて情報共有や連絡等を行った。

③ 事後指導

- ・ 訓練後に Google フォームを用いてアンケートを実施し、訓練への取組について振り返った。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

○事前指導において市の防災教育副読本を活用し、在校時に教室以外の場所で地震等が発生した場合の避難行動について考えさせることができた。

○部活動時や休憩時想定ショート訓練を実施したことで、生徒が主体的に避難行動を考えるきっかけづくりができた。また、その場に教職員がいない場合、どのような避難行動を取ればよいかも考えることができた。

○トランシーバーを活用して教職員間の連絡や情報共有を図ったことで、校舎内検索や避難経路の安全確認等の時間を短縮でき、素早い避難行動につなげることができた。

●トランシーバーの使い方を事前に周知しておく必要があった。

●地震・津波想定の場合、二次避難場所として職員駐車場を設定しているが、そこ一度とどまるのではなく、校舎内から直接高台へ避難することも検討していく必要がある。



部活動時ショート避難訓練



火災想定避難訓練



4階への垂直避難

石巻市立青葉中学校

住 所 石巻市門脇字一番谷地51番地10
在籍数 182人

1 学校の概要（学校防災面）

本校は、石巻市の西部、東松島市と境界を接する地域に位置し、学区は上釜、下釜、上大街道1・2の4地区である。地域が国道45号線及び398号線沿いにあるため、近年振興商業地域として著しく都市化が進み、他地区からの移住者も多い。東日本大震災により、北上運河を境に海側の上釜、下釜地区が特に大きな被害を受けたが、現在は着々と復興と生活再建に向けた取組が進んでいる状況である。地域の避難所に指定されており、市総合防災訓練では、地域と合同の避難訓練を実施している。



本校は、石巻市の西部、東松島市と境界を接する地域に位置し、学区は上釜、下釜、上大街道1・2の4地区である。地域が国道45号線及び398号線沿いにあるため、近年振興商業地域として著しく都市化が進み、他地区からの移住者も多い。東日本大震災により、北上運河を境に海側の上釜、下釜地区が特に大きな被害を受けたが、現在は着々と復興と生活再建に向けた取組が進んでいる状況である。地域の避難所に指定されており、市総合防災訓練では、地域と合同の避難訓練を実施している。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/14 想定：6時間目授業中に震度6弱の地震が発生。教室で1次避難（机の下にもぐる）の行動をとる。その後校庭へ2次避難。大津波警報の発令を受けて校舎3階へ3次避難を行う。 6/6 昼休み中に震度5強の緊急地震速報が流れた。 第1次避難：その場での避難行動（教室、廊下、校庭など） 9/7 清掃時間中に震度5強の緊急地震速報が流れた。 第1次避難：その場での避難行動（教室、廊下、階段、特別教室など）
火災	10/30 想定：校舎2階第2理科室より出火。出火元から一番遠い非常階段を使い、全校生徒が校庭へ避難。事前の役割分担などを行わず、職員がその場で判断して行動。
その 他	7/11 想定：（大雨・洪水）前日からの大雨により、学校は臨時休校。雨はさらに強くなり、警戒レベル4「避難指示」が昼頃に発令。青葉中学校に生徒を含む地域住民が続々避難してくる（地域住民は想定のみ）。職員は半数ほどが青葉中に来られない状態のため、学校近辺の生徒（40名程度）が避難誘導を手伝う。 11/5 全校生徒登校日として石巻市総合防災訓練に参加。学区内の4地区の避難訓練に地域住民と合同で取り組む。午後からは学校で一斉に防災学習後、生徒の引渡し訓練を行う。 1/19 想定：（原子力災害）地震・津波からの原子力事故想定。緊急地震速報を余震の想定で2度鳴らした後、屋内退避を行う。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 6月6日「防災学習の日」に、学校にいるときに緊急地震速報が流れた際の避難行動について、防災教育副読本「学校にいるときに地震が起きたら」を使用して学習し、確認した。また、9月7日には6月の自分の避難行動を振り返り、校内での違う場所・違う時間帯だったらどのように行動するかを事前に考えた上で訓練に臨んだ。



訓練前の事前指導の様子

② 訓練の取組状況

- ・ 6月、9月ともに、時間の予告はせずに訓練を行った。6月は昼休み中ということで、校庭で遊んでいる生徒もいたが、建物から離れた所に移動して避難姿勢をとっていた。また、9月は清掃の時間ということで階段やトイレ、特別教室などで、どう避難すべきかを考えて行動していた。

③ 事後指導

- ・ 緊急地震速報が鳴った時の避難行動については、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所や状態を最優先するなど、事前指導で学習したことについて確認し、その後、タブレットを活用して、-googleフォームで各自の振り返りを行った。



事後指導の様子

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 6月の訓練では、様々な場所で地震が起こったらどう対処するかについての事前指導を行った。そのため、予告なしで急に地震速報が鳴っても、慌てることなくそれぞれの場所で身を守る姿勢を取ることができた。

また、9月の訓練では、自分がいる場所について、何が危険かを判断した上で、瞬時に各場所での最善策を考えて避難した生徒が見られた。特に上級生は、過去何度か行っている訓練の成果が感じられた。

- 6月の訓練では地震到達時間の設定を30秒としていたためか、昇降口から校庭に、トイレから教室に戻るなどの行動が見られた。実際の場面では到達時間が早かったり、揺れで動けなかったりする場合もあるので、その場で対処する訓練の必要性も感じた。そこで、9月の訓練では、発報時間を10秒にし、その場での行動を意識させたが、清掃中だということで、いつもと違う教室の状態(机・いすが下げられている)や、屈みこむことがはばかられる場所(トイレ等)で、戸惑った生徒も見られた。

石巻市立寄磯小学校

住 所 石巻市寄磯浜五梅沢 2 4 番地

在籍数 2 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、牡鹿半島の東に突き出た寄磯岬にあり、寄磯・前網の2地区からなる。東日本大震災により多くの家屋が流出し、地区は大きな被害を受けた。その後、浜と漁業の再建に励んでいる。ホヤやホタテなどの養殖は以前のように回復してきているが、人の流出が止まらず、人口減少が続いている。

本校は、高い土地にあり、地域の避難所となっている。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	6/14 想定：地震 緊急地震速報の通知音により、強い地震発生を感知する。児童及び教職員は、揺れに備えて各自身を守る。 11/ 7 想定：地震，原子力 震度5強の地震が発生し、児童は屋外に避難する。その後、東北電力女川原子力発電所において、放射能漏れ事故が発生し、緊急に室内に避難する。
火災	11/13 調理実習中に家庭科室より火災が発生した。担任と教頭が初期消火を試みるも、消火に至らないため、校庭砂場に避難を行う。
その他	7/ 5 想定：土砂災害 大雨が続く中、裏山から小石が崩れ、崖から水が噴き出していることに用務員が気付く。土砂災害の恐れがあると判断し、2階ホールに避難する。 8/22 想定：不審者対応（教職員のみ） 玄関インターホンが鳴り、用務員が来客に対応したところ、不審な言動とともに校舎内へ侵入し、教室へ向かおうとする。 9/11 想定：風水害 1 3 時 3 0 分頃、気象庁より大雨警報が発表され1 8 時頃に集中した大雨となる予報が流れた。牡鹿地区一斉に引き渡しを行うことを決定する。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 業前の防災の時間を活用し、地震発生時の避難行動について確認する。
- ・ 大きな地震が発生した際の二次災害（原子力災害や津波発生）について学ぶ。



防災の時間に避難行動を確認する

② 訓練の取組状況

- ・ 大きな地震への恐怖から、児童が体調不良になり、避難することができないことを想定した訓練を行う。
- ・ 教職員は、児童のそのような状況を踏まえ、最適な避難行動を検討し、教室に留まる判断を行う。
- ・ 児童は、これまでの避難行動とは異なる状況になっても、教職員の指示を聞き、落ち着いて行動した。



児童を同じ場所に集める

③ 事後指導

- ・ 大きな地震が発生すると、余震の連発や停電、恐怖によるパニックなど予期せぬ出来事が起きる可能性があることを児童に話す。学校においては、教職員の指示をよく聞き、行動することが自分の命を守ることにすると指導した。



養護担当が児童対応に当たる



全体会・事後指導

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○実際の場面を想定し、余震や体調不良想定児童への対応を行った。訓練後、職員ですぐに反省会を行ったことで、避難行動が適切であったか確認することができ、次回の訓練での行動目標を共通理解することができた。

●本校では、教職員が少ないことや常勤ではない職員が多いため、日によって災害時の職員の役割が異なる。今回の訓練を通して、常勤の職員が状況確認や指示伝達を行い、常勤ではない職員が児童管理に当たることを確認した。職員と児童の状況に応じた最善の行動を今後の訓練でも心掛けていくとともに、常日頃から職員間で危機対応の仕方について共通理解を図っていく。

石巻市立石巻中学校

住 所 石巻市泉町四丁目7番12号

(旧門脇中学校校舎)

在籍数 331人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧北上川の河口の北西に位置し、学区の半分以上は海岸線に近い低地である。学区の南側が海岸方面、東側が北上川河口部、北側と西側が商業地と繁華街になっている。

校地は、日和山丘陵地帯の頂上付近にあり、市街地全体の避難所としても機能している。東日本大震災時には、震度6弱の地震により校舎に亀裂が入ったが、校地内への津波の被害はなかった。

学区内は日和山以外の地域で浸水の被害があった。また、大雨の際は、学区東側の北上川河口部の地域で川の氾濫のおそれがあり、学区西側の石巻駅周辺の低地では、内水氾濫による浸水が心配される。2021年度より隣接する門脇中学校と統合し、大街道小学校区が学区内となった。

「地域防災連絡会」は石巻小学校区及び山下小学校区、大街道小学校区でそれぞれ行っており、そのいずれにも出席し、地域との連携を行っている。また、本校を避難所としている泉町町内会と双葉町町内会、石巻市役所の石巻中学校担当職員で、「石巻中学校避難所開設協議会」を設立し、避難所の開設や石巻市総合防災訓練の参加について連携を図っている。

昨年度8月から石巻中学校校舎の老朽化対策工事のために、隣接する旧門脇中学校校舎に移転した（今年度末までを予定）。



(旧門脇中学校校舎)

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震	4/21 地震（授業時間中）、原子力災害
津波	6/21 地震（清掃時間中、シェイクアウト） 11/5 地震（授業時間中）、引渡し訓練 2月中 地震（部活動時間中、シェイクアウト）
火災	6/5 （授業時間中）
その他	12/13 不審者対応訓練（授業時間中）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

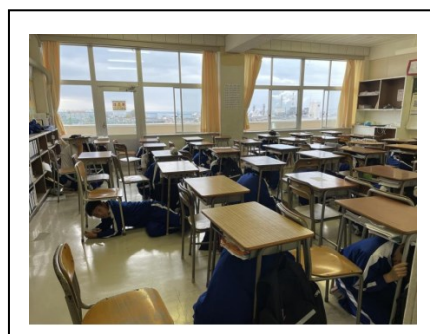
- ・石巻市防災教育副読本 P. 15、17、18 を活用し、学校で地震が起きた時の一時避難の行動や、校舎内の危険箇所等について確認した。
- ・緊急地震速報の仕組みを説明し、警報音が鳴ってから揺れが来るまでにできることを考えられるようにした。
- ・一次避難行動について、石巻市防災副読本 P. 15 を活用して、全学級共通の指導を行った。



説明用画像（石巻市防災副読本 p.15 より）

② 訓練の取組状況

- ・授業中の一次避難訓練及び、校舎倒壊の危険を回避するための二次避難、原子力災害対応の三次避難を行った。
- ・清掃時間中に緊急地震速報を2回流し、余震への対応も含めたシェイクアウト訓練を行った。
- ・部活動時間中のシェイクアウト訓練も行う予定である。



シェイクアウト訓練の様子

③ 事後指導

- ・全体指導として、訓練の講評を含め校長からの講話を行った。
- ・訓練後に、google forms を用いて振り返りアンケートを行った。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○余震を想定して、シェイクアウト訓練を2回実施した際に、生徒には2回行うことは予告をしていなかったが、落ち着いて対処をすることができていた。実施後の生徒の振り返りから、安全な場所や初期避難行動を生徒一人一人がその場で考えていたことが分かった。また、2回行ったことで「余震が来ることも想定したい」「一度大きな揺れが収まっても油断をしない」というような感想もあり、余震があることを意識づけ、その想定の上で行動する必要があることを考えさせることもできた。

●現在は緊急地震速報の音だけを録音して校内放送で流す方法をとっている。外にも大きな音が出る緊急地震速報受信機を効果的に活用するためには、地域住民への十分な周知と理解が必要となる。どのように周知し、理解を得ていくかが課題である。

石巻市立北上小学校

住 所 石巻市北上町十三浜字小田93番地4
在籍数 73人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧北上町全域である。北上川と追波湾に沿って東西に細長く広がっており、北上川沿いに県道197号線、国道398号線が通っている。

校舎の北側には、にっこりサンパークがあり、北上中学校と本校の3箇所は石巻市の指定避難所である。また、北上地区内には全13か所の指定避難所・指定緊急避難場所がある。本年8月に石巻市が公表した津波ハザードマップでは、そのうち8か所の施設が安全であることが示された。

本校の徒歩圏内には、北上こども園、北上総合支所、河北消防署北上出張所、河北警察署北上駐在所が存在し、学校周辺が北上地区の防災における中心的な拠点である。よって、地域防災連絡会の開催に際しても、緊密な連携を図ることができている（本年度は7月26日と9月26日に実施）。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/12 想定：授業中の地震・津波【緊急地震速報受信機活用】
	6/7 想定：下校時の地震・津波
	6/20 想定：北上地区園児・児童生徒一斉引渡し訓練 【緊急地震速報受信機活用】
	1/18 想定：清掃中の地震・津波【緊急地震速報受信機活用】（予定）
火災	11/21 想定：授業中の火災【緊急地震速報受信機活用】
その他	10/26 想定：原子力災害想定避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- 緊急地震速報の内容の確認
- 報知音が流れた場合の対応行動
 - ・ 安全な場所（落ちてこない、倒れてこない、移動してこない）に素早く避難。
 - ・ 頭を守り、身を低くすること。
 - ・ 校庭にいる場合は、校舎、遊具から離れ、身を守る。
- 防災教育副読本の活用



受信機の操作にあたる職員

② 訓練の取組状況

- 4月12日、年度始めの避難訓練である。教職員、児童にとって、決められた避難経路を通り、第3次避難場所まで避難することを確認する上でも大切な訓練であった。

本校の受信機の設定は、〔震度6弱〕〔到達秒数1分〕〔地震疑似音する〕〔津波訓練する〕である。これまでの訓練を含め、今回の訓練でも、発報音直後に、児童が椅子から離れて机の下で身を隠す音が校舎内に響く。児童の地震に対する身の安全を確保するための行動力が十分に備わっていると思う。

二次避難では校庭に出た。さらに、大津波警報が発表された想定のため、より高い場所であるクラブハウスの駐車場に三次避難した。その際、高学年が低学年とペアになる等の試みで実施した。



緊急地震速報音直後の児童の様子



6年生が1年生の手を引いて避難



にっこりサンパーク駐車場へ3次避難

③ 事後指導

本校では、訓練後に学年の実態に合わせた反省カードと防災教育副読本を活用している。放送や教師の指示に耳を傾け、避難行動をとることができた感想を記述していた。

また、訓練前後での児童の様子の変化の有無を学級担任に確認させた。結果的に、強いストレスを抱えた児童はいなかったが、訓練に取り組むに当たって、児童の表情や息遣い等、教師は常に児童を守る態度を強く持ち続けたいと決意する。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 本校では、地震・津波想定訓練の際、できる限り緊急地震速報受信機を活用している。そのため、児童自身が、「自分の命は自分で守る」という意識の高まりが見られるようになった。

教職員においては、報知音から僅か数秒間にどのような声掛けをし、どのような行動をとるべきなのか、瞬時に判断し行動することができるなどの能力を養うための、よい研修の機会になったと思う。

- 本年度は、火災想定訓練の際にも受信機を活用した。地震発生後に火災が発生する想定のもと実施した。今後も、さまざまな想定で受信機を活用する計画を立案したい。

- 緊急地震速報受信機のそばに操作方法を掲示した。掲示だけではなく、操作方法等、実践に即した研修を企画・運営する必要がある。

石巻市立牡鹿中学校

住 所 石巻市鮎川浜鬼形山1番地24

在籍数 22人

1 学校の概要（学校防災面）

校地は半島部の海拔37mの地点にある。東日本大震災における津波の被害や土砂災害はなかった。しかし、学区の大部分は津波で浸水して地域住民には多大な被害があった。通学バスルートや徒歩通学者は浸水地域を通らなければならない状況にある。なお、本校は牡鹿地区の避難所の一つに指定されている。現在、大阪教育大学学校安全推進センターから



SPS（セーフティプロモーションスクール）として認証されている。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/11 想定：地震・津波（授業中 一次避難から三次避難確認） 5/11 想定：地震（部活動中 一次避難から二次避難 三次避難） 10/11 想定：地震（授業終了時 予告なし 一次避難） 12/14 想定：地震（授業終了直後 予告なし 一次避難） 1/11 想定：地震（休み時間 予告なし 一次避難） 2/ 7 想定：地震（休み時間 予告なし 一次避難）
火災	11/ 1 想定：地震・火災（授業中 一次避難から二次避難）訓練後、全校生徒で消火訓練・救助袋を利用した避難訓練
その他	5/ 2 生徒・教職員対象に不審者対応訓練・安全教室開催 6/ 7 想定：地震・原子力対応（授業中 一次避難、屋内退避） 9/11 想定：小中合同引渡し訓練（大雨警報・土砂災害予報対応） 11/ 5 石巻市総合防災訓練時に清優館へ避難後、避難所設営体験

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・4月の校内研修会で全教職員に緊急地震速報受信機の活用の仕方を伝講した。



- ・「未来へつなぐ」（市防災教育副読本）を活用した後、適切な避難の仕方等を事前指導させ、防災意識の高揚を図った。
- ・避難経路や避難行動についての方法を確認させた。
- ・各顧問より緊急放送や教員の指示に真剣な態度で対応し、適切に行動するように指導した。



事前指導の様子（適切な避難等）

② 訓練の取組状況

- ・訓練時は、常に緊急地震速報の放送を行った。
- ・一次避難：シェイクアウト訓練を実施した。
- ・二次避難：屋外へ避難させ、安否確認や人員確認までをスムーズに行った。
- ・三次避難：防災主任から三次避難の際の移動場所や移動する際の留意点について確認し、その後避難した。



5月の避難訓練（三次避難）

③ 事後指導

- ・生徒から三次避難行動をしてみた振り返りと校長から講評を聞き、成果と改善点を確認できた。（全体会）
- ・三次避難行動までの振り返りを実施した。（各学級）



3次避難場所での全体会

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 今年度も毎月避難訓練を実施することで、訓練時の様々な想定に対応し、主体的に避難行動ができていた。
- 全教職員と生徒が事前に共通避難行動（頭部保護をしながら避難）を共有していたので、臨機応変に生徒の避難誘導・安全確認までの動きができた。
- 消防署職員から、発報後の一次避難、二次避難、誘導、検索の指示・確認まで俊敏かつ適切に行われ、生徒と教職員の動きは全体的に良かったという講評をいただいた。
- 火災避難訓練の計画に発災を発見してから初期消火までの流れ等を見直し、さらに計画内容を充実させていきたい。

石巻市立雄勝小・中学校

住 所 石巻市雄勝町大浜字
小滝浜 2 番地 2
在籍数 小 21 人、中 10 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧雄勝町内全域である。平成 29 年度に現在の場所に新築移転した。県道沿いに面し、南側に海を臨む。校舎は海拔 20 m の高台に位置するが、県道から約 10 m 下がったところにあり、高低差の大きい敷地である。校舎の北側はすべて急な法面で大雨の際は土砂災害等の危険が考えられる。現在も 1 割以上の児童・生徒が学区外に居住しており、学区内外に関わらず全校児童生徒が通学タクシーで通学している。



【雄勝半島中央部に位置する本校】

2 令和 5 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4/14 避難経路の確認
	4/15 想定：通学タクシーでの下校途中に地震が発生。タクシー運転者は高台等安全な場所へ避難し、学校と連絡を取り合う。
	6/20 想定：授業中にマグニチュード 9.0 の地震が発生。余震が続き、倒壊や火災などの災害も予想されるため、急いで体育館に避難しなければならない状況になった。避難後、大津波警報による避難指示発令により、より高い雄勝保育所へ避難した。その場で一次避難、アリーナに二次避難、そして雄勝保育所への三次避難を行う。
	11/5 想定：校舎内外いろいろな場所で過ごしている時間帯に地震が発生。不確定な場所から児童生徒自信の判断で、安全な場所に避難する。
火災	11/16 想定：理科室で授業中に火災が発生したため、校庭に避難。消火器で消火訓練を行う。
その他	7/11 シェイクアウト訓練
	12/12 シェイクアウト訓練
	10/13 想定：マグニチュード 9.0 の地震により、女川原子力発電所においてトラブル発生。放射性物質が放出されたため、器具庫へ避難
	2 月中旬 シェイクアウト訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 緊急地震速報の仕組み（震源地からの揺れの伝わり方と緊急地震速報が流れるまで）について、児童生徒の実態に応じて指導を行った。
- ・ 小学校では事前学習として、業前の時間に「防災の時間」を設定し、緊急地震速報の音を全校児童で確認し、一次避難の仕方について実地体験を行った。
- ・ 校内放送によるシェイクアウト訓練実施前にも、児童生徒の実態に応じて指導を行った。



【全校で事前指導】

② 訓練の取組状況

- ・ 一昨年度までは校外に流れることのないよう、緊急地震速報受信機の音声を録音し、校内放送として利用していた。今年度は近隣住民への周知や合同参加の呼び掛けを行い、地域を巻き込んで緊急地震速報受信機を活用することができた。



【机の下へ一時避難】

③ 事後指導

- ・ 避難訓練実施後は、小・中学生それぞれに分かれて、「やってみてどうだった？」と、その場で振り返りを行い、全員に発表の場を設けた。
- ・ グーグルの Forms を活用し、教職員にも、児童生徒の避難の様子や職員側の対応等について、振り返りを行った。



【二次避難完了】

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報、校内放送、ハンドマイク等、どのような手段で地震の発生や避難指示を行っても、児童生徒は適宜対応し、真剣に訓練を行う様子が見られた。
- 訓練の内容に関わる事前指導や事後指導、学活での防災教育を大事に扱うことで、防災に対する意識がより高められている。
- 自他の命を守るために、多様な状況に対応した訓練を繰り返し行える環境を地域と連携しながら整備していきたい。

石巻市立渡波中学校

住 所 石巻市さくら町四丁目1番地

在籍数 296人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、渡波小学校区、鹿妻小学校区である。全生徒が徒歩で通学する。一部、学区外に居住する生徒は保護者の送迎で通学している。周辺は土地が低く冠水する場所があり、これまでに何度か通行止めになっており、教職員や生徒の通行に影響を及ぼした。校地から北西の高台の稲井につながるトンネルが開通し、そちらへの避難訓練も必要と感じている。



昨年度から校庭を駐車場として開放することが可能となり、ドライブスルー方式での引渡しが可能になったほか、校舎2・3階の吹き抜け部分に落下防止網が設置され、より安全な学校生活を送ることのできる環境となった。今年度は、校舎北側2階と3階の死角となる場所に防犯カメラを設置し、更なる学校安全を目指している。

2 令和5年度避難訓練実施計画

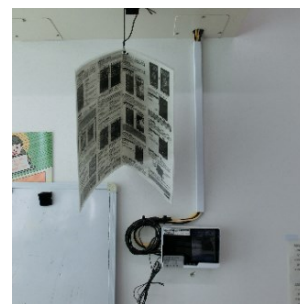
訓練	内 容 等
地震 津波	4/14 想定：地震・津波（基本となる避難経路の確認） 5/ 2 想定：地震・津波（部活動中） 6/13 想定：地震・津波（給食時、ショート訓練） 9/ 8 想定：地震・津波（部活動中） 10/30 想定：地震・火災・津波（新津波想定） 11/ 5 想定：地震・津波（石巻市総合防災訓練、復興防災マップづくり検証のための街歩き）
火災	10/30 想定：地震・火災・津波（新津波想定）
その他	12/20 不審者対応（職員研修） 1/10 想定：不審者対応（ショート訓練）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前準備・指導等

- ・昨年度、緊急地震速報受信機が更新され、使用方法を打合せで周知したが、全職員が使用できることを考え、取扱説明書の写しをラミネート加工し、受信機の近くに常備した。
- ・校舎の平面図を用いて、各活動場所から複数の避難経路を指導する時間を設けた。また、東日本大震災での被害が大きい地域という現状に加え石巻市の「(改訂版)津波ハザードマップ」での津波浸水想定を考慮し、生徒の様子をよく観察しながらの事前指導を意識した。



- ・部活動中の訓練については、伝統となった部長会議を開催し、各活動場所でのリスクや適切な避難行動について考え、避難経路や避難場所について確認した。

② 訓練の取組状況

- 4/14 新しい教室からの避難経路の確認を一番の狙いとして実施した。
- 5/13 新入生の所属部活動が決まり、活動場所からの避難を想定して実施した。
- 6/13 告知を行わず、給食準備中の緊急地震速報受信機の放送を受け、一次避難を行い、安全確認後に教室で点呼を取る訓練を実施した。
- 9/8 部活動中の地震・津波を想定し、顧問不在の部活動を設定し、部長がリードし、生徒が自主的に高所避難を行う訓練を準備していたが、台風13号の接近に伴い中止となった。
- 10/30 昨年度新型コロナウイルスの感染拡大で実施できなかった地震と火災、そして新津波想定での高所避難場所の検討を行った。全校生徒が校舎3階北側のテラスとその周辺に避難できることを確認した。
- 11/6 石巻市総合防災訓練の日を登校日として、各家庭からの近隣の避難場所へ移動した。その後、8月から作成に取り組んだ復興防災マップを持参し、地区の方々とその内容を検証する街歩きを行ってから登校し、体育館でその内容の発表会を行った。今年度は、図上訓練のシナリオを一部自校化し、本校の校舎の平面図を用いる工夫を取り入れた。
- 12/20 インフルエンザ感染拡大を受け延期とした。
- 1/4 不審者対応の職員研修として、不審者役・職員役・生徒役に分かれて、シナリオなしの不審者対応訓練を行い、成果と課題を話し合い、共有して、危機管理能力の向上を図る予定である。
- 1/10 不審者対応のショート訓練を実施し、職員研修の内容を受けて、生徒と共に校舎の特徴から考えられるリスクを考察する。



③ 事後指導

- ・学校内外、卒業後も自主的に適切な避難行動を選択できる力を養うことを目標とし、各訓練後には生徒自身が考え、教師とともに振り返る時間を設定した。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 訓練や事前指導・事後指導を通じて、生徒の防災意識や自主性を向上させることができた。
- 新津波想定での垂直避難について検証、見直しができた。
- 緊急時の連絡手段として、Google Meetの使用が可能であることを確認できた。
- コロナ禍で途切れてしまった地域との活動が再開できた。
- 東日本大震災を経験していない（記憶にない）生徒への意識高揚が十分ではない。
- 地域の方々に訓練等を参観していただくための手立てを増やす。

石巻市立大街道小学校

住 所 石巻市大街道南一丁目3番1号
在籍数 206人

1 学校の概要（学校防災面）

学区の南側には石巻工業港があり，東日本大震災では，学区全域が浸水した。校地は高さ約1mの津波により浸水。校舎内は床上4～5cmの浸水。

校舎は鉄筋コンクリート3階建（屋上あり）。校舎，体育館ともに耐震補強工事済みである。本校の南側に高盛土道路が整備されたが，令和4年5月10日に公表された「宮城県津波浸水想定」では，「3～5m」となっている。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震	4/19 想定：業前の時間に，震度6強の地震が発生。緊急地震速報の音を聞き，適切な避難行動をとる。 1/25、2/15、3/7にも実施予定
地震 津波 引渡し	5/26 想定：震度6強の地震が発生。地震による火災は発生しなかった。 11/5 大津波警報が発表され，全校児童は校舎3階へと避難する。 大津波警報解除後，児童を引取り人に確実に引き渡す。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・4月（緊急地震速報訓練）

各学級において，緊急地震速報の仕組みについて，どのような場合に音が鳴るのかを指導した。その後，緊急地震速報が鳴った時の避難行動について，「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に避難することを指導した。



教室内での避難行動の確認

- ・5月，11月（地震・津波・引渡し）

地震，津波，引渡しの訓練となるため，地震発生時の1次避難，大津波警報発表時の2次避難，大津波警報解除後の引渡し方法についてそれぞれ指導した。

② 訓練の取組状況

・ 4月（緊急地震速報訓練）

全校放送で緊急地震速報のアラーム音を2回流し、1回目はどのような音がするかの確認、2回目は机の下での身の守り方を指導した。

・ 5月、11月（地震・津波・引渡し）

緊急地震速報発報後、各教室等で1次避難を行った。その後、大津波警報が発表されたことを受け、校舎3階の学年ごと指定された教室へ避難した。大津波警報が解除されたことから、保護者への引渡しを行った。



緊急地震速報発報後の1次避難の様子

③ 事後指導

・ 4月（緊急地震速報訓練）

緊急地震速報の仕組みやアラーム音を理解することができたか、適切な避難行動をとることができたかなどについて、確認を行った。

・ 5月、11月（地震・津波・引渡し）

いつ、どのような場所でも適切な避難行動をとることができるように、防災の意識を常にもつことの大切さについて指導した。



校舎3階に避難する様子



事後指導で真剣に話を聞いている様子

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○緊急地震速報受信機を活用した訓練を毎年行うことで、児童のアラーム音の理解が深まっている。

○学校にいるときにアラーム音が聞こえた場合は、いつでも避難行動をとるということが確認できた。

●緊急地震速報が聞こえたら、児童の安全だけではなく、教員自身の安全も確保するように徹底していく。

●様々な場所や時間を想定して訓練を実施したり、児童に適切な避難行動について考えさせたりすることで、いつでもどこでも身を守る行動が自らできるように今後も指導していく必要がある。

石巻市立釜小学校

住 所 石巻市大街道西二丁目5番1号
在籍数 435人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、市の西南に位置し、東西約3km、南北約2kmに及ぶ。北北上運河沿いの国道45号線・398号線を中心に平地が続いており、西側は東松島市に接している。周囲に山や崖等はないため、土砂災害の危険はない。しかし、校庭の地割れや校舎と地面との段差発生の可能性はある。



学校の北側にある北北上運河は、大雨によって水があふれる可能性は低いが、想定されるハザードとして捉えておく必要がある。洪水による浸水は、本学区は50cm～1mほどの危険性があるとされている。

学区南部は太平洋を臨み、石巻工業港まで直線距離で約1.3kmである。東日本大震災では学区の大部分は津波により浸水した。学区北部は被災状況が比較的軽く、浸水深が浅かったが、海に近い学区南部では甚大な被害を受けた。しかし現在は復興公営住宅が完成、都市計画道路「釜大街道線」も部分開通し、着々と復興が進んでいる。

校舎は海拔2mであり、校舎1階の床上約1.3mまで浸水し、体育館はステージ高近くまで浸水した。そのため、東日本大震災と同規模の大津波が起きた場合、学校は床上1～2mの浸水となる可能性が高い。

海側から強い風が吹きやすい傾向があり、突風や竜巻等の強風による被害が想定される。また、女川原子力発電所から本校までの直線距離は約20kmであり、原子力発電所から30km圏（UPZ）となる。

本校は、石巻市の指定避難所となっている。また、津波、高潮、洪水、内水氾濫、土砂災害の指定緊急避難場所でもある。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/12 想定：地震、津波（授業中） 1次避難：各教室 2次避難：3階以上の教室 引渡し訓練（1年生児童及び保護者のみ実施） 9/14 想定：地震、津波、停電（休み時間中） 1次避難：各場所 2次避難：各教室 11/5 石巻市総合防災訓練 地域で参加
火災	11/15 想定：家庭科室より出火（授業中） 火元から遠い経路（非常階段等）を使用。
その他	12/8 原子力発電所での事故。屋内退避。引渡しの準備（防災タイム）。 1/26 洪水浸水想定。3階以上への避難（防災タイム）。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・新学期開始直後に、各学級で避難経路の確認を行った。
- ・「防災タイム」で、地震発生時の行動を、学年の実態に応じて指導した。校内のどの場所にいたとしても「落ちてこない」「倒れてこない」「動いてこない」場所を近くに見付け、「ダンゴムシのポーズ」をとることを指導した。1年生には、机の脚をしっかりとつかむことなど、自分の命を守ることにつながる知識についても指導した。

② 訓練の取組状況

- ・授業時だけでなく、休み時間や清掃時間中での災害発生を想定した設定での避難訓練を実施した。
- ・児童は緊急地震速報受信機の音声流れると素早く机の下に入り、自身の安全を確保していた。
- ・職員研修で避難計画改善を図った。
- ・休み時間の避難訓練では、近くの教員の指示を聞いて行動したり速やかに身を守る体勢をとったりする様子が見られた。
- ・2次避難で移動する際も、整然と避難できた。
- ・本校は津波浸水区域にある。大津波警報が発令された想定で校舎内に避難する際には、全児童が校舎3階以上の教室に速やかに避難することができた。



③ 事後指導

- ・いつ地震が起こるか分からないこと、どの場所においても避難行動をとれるようにすることの大切さについて各学級で指導した。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 多くの児童が避難の仕方を理解し、落ち着いて行動できていた。真剣に訓練に参加していた。
- 引渡し訓練は、大きな混乱も無く実施できた。
- 地震・津波・停電の複合災害を想定した避難訓練を行うことができた。
- 報知音が鳴ると放送を聞かずに行動してしまう児童がいる。放送の指示をよく聞いて行動するよう繰り返し指導を行う。

石巻市立二俣小学校

住 所 石巻市大森字大平6番地

在籍数 127人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、北に8km、南に5kmと広く、遠距離通学児童が多い。学区の北東部には山地があり、北側には北上川、南西側には旧北上川が流れる。東部は、追波湾に面している。大きく二俣地区と大川地区に分かれ、大川地区においては、東日本大震災の大津波により壊滅的な被害を受けた。



本校は、震災時の被害は少なかった。校舎は2016年に大規模改造及び耐震工事を工しているため倒壊等の危険性は低い。しかし、校舎東側と北側には山があり、大雨や地震等による土砂災害（崖崩れ）の可能性がある。2019年台風19号の際には、学校前の大森川が氾濫し、通学路に流木や泥が上がった。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/30 想定：6時間目に地震発生，津波警報が発令される。 警報解除後，河北地区8校合同引渡し訓練。
	10/5 想定：M7.2，業間に緊急地震速報が鳴った際の身の守り方。 及び，2度目の緊急地震速報（余震）に対する身の守り方。
	11/5 想定：石巻市総合防災訓練日に実施。 8時30分，地震発生。各々の場所でシェイクアウト訓練を行い，その後，最寄りの避難場所へ避難行動を取る。
	1/18 想定：縦割り遊び活動中に地震があった際の身の守り方。
火災	11/15 想定：1階家庭科室より出火。西階段を下り校庭に避難。
その他	6/22 想定：洪水浸水害・土砂災害想定避難訓練。 登校後，前線性の豪雨により堤防決壊の恐れがあるため，校舎2階への垂直避難をする。
	2/13 想定：原子力災害避難訓練。屋内退避。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・日時は予告し，訓練のための緊急地震速報音が鳴ることを伝えておく。
- ・第一次避難行動（緊急地震速報後の行動）の取り方について指導する。

- ※ 「落ちてこない 倒れてこない 移動してこない」場所に避難する。
- ※ 基本は机の下に避難。基本姿勢はダンゴ虫。その場所にあった身の守り方。
- ・二次避難で移動の途中であっても、余震の可能性のあることを教え、緊急地震速報を聞いたなら、その場で安全な場所を探し、身を守ることを指導する。
- ・校内放送を静かに聞き、慌てないで避難行動ができるようにする。
- ・教室にいる児童は、二次避難の際、ヘルメットを着用する。

② 訓練の取組状況

- ・業間の時間帯であり、校庭や各教室、特別教室等、各々の場所にいる。
- ・緊急地震速報（1回目）の音で、各自、頭を守り、一次避難をする。
- ・トランシーバーを使って避難経路安全確認の後、校長が二次避難を指示する。
- ・二次避難場所へ児童が移動する途中で、2回目の緊急地震速報音が流れる（余震に対する訓練）。
- ・余震から身を守った後、校庭の二次避難場所に全員避難。人員点呼し、避難完了。
- ・二次避難の検討を行う。携帯ラジオで災害状況を把握し、津波の心配がないことを確認する。
- ・校長、教頭に情報の報告をし、訓練を終了する。
- ・各教室に戻り、事後指導を行う。



一次避難の様子【特別支援学級教室】



二次避難中に余震から身を守る様子

③ 事後指導

- ・緊急地震速報を聞いて、すぐに安全な場所で身を守れたか、2回目の速報では、どのような行動を取ったかを振り返った。



事後指導の様子

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 2階教室と職員室との間で、トランシーバーを用いて情報のやり取りを行った。これまでより迅速に連携を取ることができた。
- 休み時間の訓練であったが、教室に教員がいて指示する機会が多く、児童自ら安全な場所を選んだり、放送を聞いて行動したりする力を試す機会が少なかった。今後は、児童が様々な場所で自由に行動している時間帯に訓練をすることで、自ら命を守る力を付けさせていきたい。

石巻市立山下中学校

住 所 石巻市 貞山五丁目 3 番 2 号

在籍数 1 8 4 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、旧北上川、北上運河、石巻港に囲まれた、住宅地と商業施設が混在する地域である。

東日本大震災では、1 mの津波浸水があり、ライフラインの復旧には1か月以上を要した地域もある。また、平坦な地域のため、津波や洪水から避難するための高台がなく、蛇田方面や稲井方面へ移動する方法しか避難手段がない状況である。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	<p>4/14 想定：震源地を宮城県沖とする震度6強の地震が発生。年度初めであるため、基本的な避難経路の確認を行う。また、生徒を地区ごとに集合させ、家庭で地震が起きた際の避難場所や地区のメンバー等を確認させた。</p> <p>6/2 想定：震源地を宮城県沖とする震度6強の地震が発生し、その後大津波警報が発表された。事前連絡なしで、前回と同様の避難ができるかを見る訓練。また、校舎は耐震構造で倒壊の危険性は少ないが、大津波警報が発表されているため、校舎3階から4階までの範囲で避難を指示した。</p> <p>11/5 市総合防災訓練 想定：震源地を宮城県沖とする震度6強の地震が発生し、その後大津波警報が発表された。地震直後は家庭で一時避難。その後、各地区の避難所へ二次避難をし、避難所運営のサポート等に参加。</p> <p>11/4, 11/11, 11/18 想定：巨大地震が発生した際に自分自身の安全を確保するため、シェイクアウト訓練の3つのポーズを意識した訓練を行った。全3回の中で、昼休みや清掃時間の対応、生徒への予告のない状態での避難訓練において、真剣な態度で訓練に取り組む姿勢などを身に付けさせる。</p>
火災	<p>10/13 想定：職員室前の電源がショートして出火。初期消火では間に合わず、延焼の恐れがあるが、停電により放送できない想定での訓練を実施。</p>
原子力 事故	<p>2/13 想定：東北電力女川原子力発電所で異常発生。炉心損傷により放射性物質が大気に放出された。PAZ避難指示、UPZ屋内退避指示のため、放送により屋体退避を予定。</p>
洪水	<p>2/13 想定：昼頃からの急な大雨により北北上運河が増水。本校にあふれた水が流入した。1階に教室がある3学年のみを対象に避難訓練を実施予定。</p>
不審者 対応	<p>3/中旬 想定：授業時間中、来客用昇降口より不審者が校内へ侵入。本校職員が発見した。上記の設定のシミュレーションを実施予定。</p>

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・朝の会等で「訓練の目的」や「地震の規模」、それらの情報を基にした具体的な「身を守る行動」について確認を行った。
- ・緊急地震速報受信機の音声は震度によって異なり、音声を聞くだけでも迅速な避難が必要かどうかを判断できることなどを説明した。

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報システムを活用し、「10秒後」「震度6強」の設定で実施した。直ちに安全な場所に避難行動をとることができた。
- ・緊急地震速報の報知音（NHKチャイム音）については訓練実施時のみ使用し、生徒の不安を与えないよう配慮した。

③ 事後指導

- ・避難訓練終了後、学級ごとに「振り返りシート」を用いて、訓練の内容を自己評価させるとともに、石巻市教育防災副読本「未来へつなぐ」を用いて、それぞれの考えを引き出せるような設問を考えた。



訓練後の講評の様子

【第1回】大地震が発生した時に、校内で「崩れるかも」

↓ 「危険だな」と考えられるような場所はどこだと思いますか。

【第2回】大地震が発生した時に、津波が同時に発生した際の避難や、家庭内での約

束事、適切な避難行動について考えられるか。

【第3回】学校の校舎内で火災が発生した時に、停電した場合、通常の火災と比較してどのようなトラブルが想定されるか。

回を重ねるごとに考えが深まるよう、設問の工夫を行った。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 訓練実施後のアンケートを見ると、「緊急地震速報の音声を聞くと、実際に地震が起きたようで緊張感が増し、真剣に取り組むことができた」などの感想が見られた。避難訓練に緊張感を持たせる効果があると思われる。
- 今年度、停電想定の話になった際、「緊急地震速報受信機は停電でも使えますか？」と職員から質問があり、電源を抜いてみたら使えなかった。通常、「地震発生→電源消失→停電」の流れとなるだろうから、地震速報が受信できないというケースは稀だろうが、考える最悪の想定をする際には、こういった情報も知っておくべきだと感じた。

石巻市立開北小学校

住 所 石巻市大橋一丁目 2 番地 1

在籍数 2 9 7 人

1 学校の概要（学校防災面）

学校および学区は、住宅地または商用地である。また、低地にあり、海拔は0m以下である。

周囲に旧北上川が流れ、右岸堤防（高さ約3m）に囲まれている。海岸から直線距離3.15kmの平地にあり、土砂災害の危険は感じられないが、津波、洪水、内水氾濫等の水害、地盤の液状化、地割れ、地盤沈下等の災害の危険がある。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
引渡し	4/27（木）：災害時における自家用車による引渡し訓練 （保護者への引渡しはせず、児童と職員の動きの練習を行った。）
地震 津波	6/19（月）：授業時における地震・津波避難訓練 （緊急地震速報受信機を使用した訓練）
不審者	7/13（木）：石巻警察署の方を招いての防犯避難訓練・防犯教室
洪水 浸水	9/7（木）：休み時間における洪水・浸水対応避難訓練 （2階以上の教室への垂直避難）
その他	11/5（日）：石巻市地域防災訓練 午前：地区ごとの防災訓練 午後：3校合同の引渡し訓練
火災	11/13（火）：火災対応避難訓練
地震	1/10（水）：シェイクアウト訓練（緊急地震速報受信機を使用した訓練）
原子力	1/15（月）：原子力事故発生時の対応避難訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践（6/19）

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・必要に応じて日頃の学級活動や月に1回「防災チェックの日」として業前活動に防災学習を行っている。地震が発生した時には、頭を守ることを指導している。頭を守るために、教室内であれば、机の下に潜ることを指導している。教室以外の場所では「ダンゴムシポーズ」になること、そして、物が落ちてこない、倒れてこない、動いてこない場所に移動することも併せて指導している。



緊急地震速報受信機

② 訓練の取組状況

- ・授業中に、校内放送で緊急地震速報が発令された後、児童は素早く机の下へ第一次避難行動をとることができた。その後、第二次避難場所である3階へ落ち着いて避難することができた。



垂直避難時の様子①
(避難しているとき)

③ 事後指導

- ・訓練終了後、各学級で事後指導を行い、どの場所においても「頭を守ること」を再度確認した。
- ・実際に地震が発生した場合、停電になる可能性も高く、避難の指示が放送でできない場合があること、先生の話聞くためには静かに待機する必要があることを伝えた。



垂直避難時の様子②
(避難した後、静かに待機している。)

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 授業中に避難訓練を行ったことで、児童自身が落ち着いて避難行動を取ることができた。様々な時間帯や場所を設定することにより、児童が第一次避難行動の大切さを理解し、速やかに行動できるようになった。
- 緊急地震速報受信機を活用したことで、実際に大きな地震が発生したときを想定しながら、職員の行動や児童等への指示などの訓練を実施することができた。また、職員も緊張感をもって避難対応をすることができた。
- 緊急地震速報受信機を実際に活用すると、校外にも放送されてしまう。現在は配線を外して校内のみに放送できるようにマイクを使用しての訓練となっている。通常時と訓練時の切り替えができるようになるとういと考える。

石巻市立中里小学校

住 所 石巻市中里五丁目7番1号

在籍数 177人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻駅の西北約1.5kmに位置している。近年の経験やハザードマップの情報では、液状化や土砂災害の危険性は低い。しかし、旧北上川決壊の場合は、0.5～3mほど浸水すると予測されている。南中里地区は3～5m浸水すると予測されている。津波発生時は1～3mほどの浸水が予測されている。学校付近の南西側の道路は強い雨が降るとよく冠水する。女川原子力発電所から、直線で約18kmに位置するUPZ圏内である。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	<p>6/9 想定：授業中に震度6弱の地震が発生。津波注意報・警報は発表されていないが、マニュアルの規定に従い、保護者へ引渡した。</p> <p>7/11 想定：業前活動中に震度5強の地震が発生。（第一次避難のみのミニ避難訓練。）</p> <p>9/19 想定：清掃時に震度5強の地震が発生。（それぞれの場所で避難行動をとり、その後教室へ移動するミニ避難訓練）</p> <p>11/5 想定：午前8時30分、最大震度6強の地震が発生。その後大津波警報が発表された。（石巻市総合防災訓練）</p>
火災	<p>10/25 想定：地震発生の影響で、1階職員室より出火。校庭へ避難。</p>
その他	<p>6/29 洪水・浸水想定避難訓練 想定：朝から降り続いた大雨により北上川が増水し、氾濫する恐れがあると判断。</p> <p>7/9 不審者対応避難訓練 想定：授業中、正面玄関から不審者が侵入。</p> <p>11/10 原子力災害避難訓練 想定：地震発生後、炉心損傷により放射性物質が放出され、UPZ屋内退避指示が発表される。</p> <p>12/19 Jアラート発表のミニ避難訓練 想定：業間休みにJアラートが発表される。</p>

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・ 授業中だけでなく、休み時間や清掃活動中に地震が発生した場合の避難行動について各学級で指導した。
- ・ 基本は机の下に避難（机の脚を持つ）、または、ダンゴムシのポーズで身を守ることを確認した。
- ・ 決して話したり、走ったりせず、真剣に取り組むことも指導した。



休み時間中の避難行動

② 訓練の取組状況

- ・ 児童は緊急地震速報受信機の音声が行くと、素早く机の下に潜り、自分の身の安全を守ろうとしていた。
- ・ 休み時間や清掃活動中は、教師からの指示がなくても、その場に応じた避難行動をとることができていた。



清掃活動中の避難行動

③ 事後指導

- ・ 全体講評を受け、訓練全体の振り返りを行った。各学級で避難行動を振り返り、さらに自身の避難行動についての自己評価を行った。災害に応じた避難行動について、再度確認した。



全体講評

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報の音声がかげると、すぐにその場に応じた避難行動をとることができるようになり、児童の防災意識が高まってきた。
- 緊急地震速報機を活用した訓練を繰り返して実施したことで、児童も緊急地震速報音に慣れ、更に高学年の児童は下級生に声を掛けて避難する様子が見られるようになった。
- 緊急地震速報音と J アラート音を区別させ、災害に応じた避難行動について繰り返し指導していく必要がある。

石巻市立河北中学校

住 所 石巻市小船越字山畑250番地
在籍数 121人

1 学校の概要（学校防災面）

旧河北町の南西に位置し、北上川・追波川・旧北上川の流れに囲まれている。

生徒は、3つの地区（二俣・大谷地・大川）から登校し、ほとんどの生徒は自転車で通学している。（大川地区の生徒はスクールバスを利用）

台風や大雨等によって、北上川が氾濫・増水することにより、学区内に洪水や浸水の危険性がある。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	4 / 13 想定：地震・防災オリエンテーション (避難訓練：6校時)
	6 / 28 想定：地震（予告なし避難訓練：昼休み）
	9 / 22 想定：地震（予告なし避難訓練：清掃中）
	11 / 5 想定：石巻市シェイクアウト訓練 → 登校せず自宅で実施
	1 / 24 想定：地震（予告なし避難訓練：部活動中）
火災	11 / 15 想定：地震・火災想定
その 他	5 / 30 想定：地震・河北地区幼・保・小・中学校合同引渡し
	8 / 30 想定：不審者対応
	10 / 5 想定：地震・原子力災害

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- 年度の最初に行われる地震想定避難訓練の後に防災オリエンテーションを行い、年間での避難訓練について地震速報の使用の説明を行った。放送される音源に対して、不安を抱えている生徒がいないかを確認した。



<防災オリエンテーションの様子>

② 訓練の取組状況

今年度は全ての地震想定避難訓練において、緊急地震速報受信機を活用した。

・ 4 / 13

新入生が入学し初めての避難訓練で地震が起きた際の、避難の仕方などを確認した。職員も新体制となり学年のフロアや教室の変更に伴い、避難経路と誘導の確認をすることができた。



・ 9 / 22

予告なしの避難訓練を行った。地震速報の音源の使用を事前に生徒に告知し、不安を感じる生徒がいないかを確認し、教職員で生徒のメンタルにも配慮するようにした。

<予告なし避難訓練の様子>

・ 11 / 15

河北消防署員の方に来ていただき、火災報知器のベルと緊急地震速報受信機を使用した訓練を実施した。火災発生時の対応や初期消火について助言していただいた。

③ 事後指導

- ・ 訓練後に全体講評や各教室の先生方の指導を実施した。その後、Google フォームや話し合いを通して訓練の取組みの振り返りを行った。
- ・ 避難訓練の実施方法や成果、課題について、教職員で振り返りを行った。その後、職員会議等で情報を共有した。



<訓練後の振り返り>

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 緊急地震速報受信機の音源を活用し、地震発生時の状況を再現して臨場感を出すことにより、避難訓練での緊張感が高まった。
- 緊急地震速報受信機の音源について、徐々に生徒の理解が深まってきている。そのため、生徒は机の下に身を隠すなどの第一次避難行動を素早くとれるようになった。
- 避難行動の最中に再度発報するなど緊急地震速報受信機の使用の仕方の工夫が必要である。
- 緊急地震速報受信機の操作について一部の教職員しか扱えない現状があるため、避難訓練時の役割分担の工夫が必要である。

石巻市立蛇田小学校

住 所 石巻市蛇田上中塚 9 7 番地 1

在籍数 7 3 1 人



1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の西部に位置し、三陸自動車道など幹線道路を複数有している。東日本大震災後、被災地域から移り住む住民が増加し、交通量の増加や地域の都市化がますます進んでいる。

学校周辺の道路は狭く、通常でも渋滞が発生しやすい。また、児童数が多いことや校舎の配置から、校舎内に十分な2次避難場所を確保したり、迅速に校舎外に移動したりすることが難しい。

東日本大震災では、学区の南側の北上運河沿いの地域が床上や床下に浸水した。学校に浸水はなく、校舎の窓ガラスが数箇所割れた。震災当日から同年10月まで避難所となり、最大700名以上が宿泊した。在校生の死亡または行方不明者はなかった。

近年の状況及び石巻市ハザードマップ等から次の点に注意している。

- ① 学区全体が低く平坦な地形である。3階建ての本校より高い建物は周囲にほとんど無く、近隣の向陽小学校までの道のりは約1kmで、地形分類上の旧河道や氾濫平野を横断する必要がある。
- ② 学校は氾濫平野上にあり、周辺も同様あるいは砂州・砂丘になっている。そのため、地震による液状化や建造物の倒壊等の可能性がある。
- ③ 令和4年5月10日付けの「宮城県津波浸水想定」を受けた石巻市教育委員会の資料で、本校の想定浸水深はこれまでの「0m」から「1～3m」となった。
- ④ 旧北上川堤防が決壊した場合、学校付近は1m程度の浸水が想定されている。本校は水防法又は土砂災害防止法に基づく市の防災計画において浸水想定区域の要配慮施設として位置付けられている。
- ⑤ 新下前沼地区や東前沼地区、新谷地前地区（JR仙石線南側）は、過去の集中豪雨で冠水したことがあり、今後も大雨の際には注意をしなければならない。

2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震	4/20（木）：授業時（地震・津波）避難訓練（緊急地震速報受信機活用）
津波	6/ 8（木）：休憩時（地震・津波）避難訓練（緊急地震速報受信機活用） 11/ 5（日）：シェイクアウト訓練
火災	10/ 17（水）：火災避難訓練
その他	6/ 21（水）：風水害（浸水）想定避難訓練 10/27（木）：原子力災害対応訓練

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・学級活動及び、業前活動の「防災タイム」を利用して、実施日時以外の訓練内容を伝えるとともに、適切な避難行動について指導した。
- ・安全姿勢を取ることに加え、校庭・前庭では可能な範囲で壁面や遊具から離れること、校舎内では落ちたり倒れたり移動したりする物から離れることを指導するとともに、教室以外の様々な場所にいることを想定し、どのような危険性があるかを考えた。

② 訓練の取組状況

- ・校内放送で緊急地震速報の訓練音を1分程度繰り返し流し、地震の発生を伝えた。
- ・児童はその場で避難行動を取った。
- ・休憩時避難訓練では、図書室や校庭などで過ごしていた児童も状況に応じて身を守ることができた。



机の下で身を守る児童の様子

③ 事後指導

- ・訓練終了後、各教室においてカードを使用した訓練の振り返りを行った。
- ・適切な避難行動が取れたかを確認するとともに、各所での行動について全体で共有したり、学校以外で緊急地震速報を聞いた際の避難行動について確認したりし、気づきや学びを累積した。

地震・津波	4/20	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	これからもししんやつなみか きて人がまをまてるためしはうか クラブをよういする。	
地震・津波	4/20	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	つなみの人をもれこは高たから中学校などに ひてする。	

児童の振り返りカード

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 適切な避難行動について改めて確認することができた。
- 教室以外の場所で地震が起きたらどのように行動したらよいか考えることができた。
- 訓練計画通りに動くことを目指した訓練になってしまっている。今後は実際の災害に対応できるよう、一人一人の教職員が自分で考え判断し、課題を見付けられる訓練にしていく。
- 緊急地震速報受信機的使用方法等について共通理解を図る研修を実施する。

石巻市立向陽小学校

住 所 石巻市向陽町四丁目13番24号
在籍数 355人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、石巻市の北西にあたり、女川原子力発電所から半径20kmのラインをまたぐように学区が広がり、UPZ圏内（原子力施設からおおむね30km圏内、避難、屋内退避、安定ヨウ素剤の予防服用等を準備する区域）に入る。東に国道45号線、南西に国道108号線が走る。1965年に造成された通称「蛇田ニュータウン」と呼ばれる団地地域と、1989年より造成されたあけぼの地区が大きな住宅地となっている。東日本大震災の被害が比較的少ない地域ということもあり、石巻赤十字病院周辺（わかば、あけぼの北）等に住宅着工が進んだ。一方で、学区の西部は農地が広がり、学区内全体で見れば豊かな自然も残る地域である。学区外より通学する児童は多い。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震	5/23 想定：地震(業間休み実施)
津波	11/5 想定：石巻市総合防災訓練参加（緊急地震速報を活用した地震想定）
火災	9/27～29 想定：火災(業前に防火扉通過訓練) 10/4 想定：火災
その他	6/14 想定：不審者侵入(児童対象) 6/21 想定：浸水 9/15 想定：不審者侵入(職員研修) 10/31 想定：原子力災害(業前防災タイム実施)

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- 各学級で緊急地震速報のアラーム音と同時に一次避難行動に移り、安全を確保するよう指導した。
- 防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用し、教室外にいるときにも物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所に避難することを確認した。



防災頭巾がない状態で一時避難行動をとっている様子

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報を流し、揺れが終息したという放送があるまで机の下で安全を確保させた。児童は揺れに備えて机の下にもぐり、机の脚をもつ姿勢をとった。
- ・ 揺れている間、担任は児童に安全確認をするよう指導した。
- ・ 今年度は、石巻市の総合防災訓練の日にも緊急地震速報を活用した。普段、学校で授業を行っている時に発災したという想定で実施し、三次避難まで実施した。

③ 事後指導

- ・ 各学級で担任が緊急地震速報を活用した避難訓練の事後指導を行った。放送をよく聞くことができたか、放送を聞いてすぐに避難行動をとることができたかなど、全体で振り返りを行った。
- ・ 防災教育副読本「未来へつなぐ」を活用し、避難行動を振り返った。

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 児童は緊急地震速報の放送と、学級担任の的確な指示をしっかりと聞き慌てずに避難行動ができた。
- 事前指導を行い、児童は避難行動の意味を考えながら訓練に参加していた。
- 緊急地震速報を使いながら、緊迫感を出した訓練ができるようにしたい。
- 学級担任も自分の身を守る行動をしながら、児童に指示を出す必要があった。

石巻市立飯野川小学校

住 所 石巻市相野谷字旧屋敷 5 6 番地

在籍数 1 4 4 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、東西 6 km、南北 3 km である。児童の 8 割は徒歩または保護者送迎で通学している。また、2 割の児童はスクールバスを利用して通学している。2011 年の東日本大震災では校舎に大きな被害はなかったが、学区の一部（本町・川前・五味・中野地区）は津波で床下浸水し、本校体育館に避難し宿泊した。



近年の状況および石巻市ハザードマップ等から次の点に注意している。

- ① 本学区は標高 3 m の平地にある。北上川の堤防より低い場所に学校があるため、洪水による浸水の危険がある。予想浸水深 2 m ～ 5 m。
- ② 校舎の裏は山になっており、集中豪雨に伴う土砂災害の危険がある。
- ③ 海からはかなり遠いが、大規模地震に伴う津波による浸水の危険がある。予想浸水深 0.5 m。

2 令和 5 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
避難経路確認 地震・津波	4 / 1 7 (月) 想定：地震・津波（八幡神社までの避難経路を確認） 5 / 3 0 (火) 想定：地震・津波（各教室→校庭→校舎 3 階に避難，幼稚園と合同で実施）
引渡し 土砂災害	5 / 3 0 (火) 想定：河北地区幼・保・小・中学校合同引渡し訓練 1 0 / 1 7 (火) 想定：土砂災害（河北総合支所内に避難）
Jアラート 原子力 地震 垂直	1 2 / 7 (金) 想定：大規模災害・弾道ミサイル（Jアラート対応） 1 0 / 3 (火) 想定：地震・原子力（各教室→体育館に避難） 1 1 / 5 (日) 想定：地震（石巻市シェイクアウト訓練に合わせて実施） 1 / 1 9 (金) 想定：洪水（校舎 3 階に避難）
火災	1 1 / 1 4 (火) 想定：家庭科室から火災（消火体験実施）
その他	7 / 4 (火) 想定：不審者対応（防犯教室実施）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要【原子力(地震)・授業時間・予告あり】

① 事前指導等

- ・業前の防災学習では、副読本「未来へつなぐ」を活用して原子力災害の恐ろしさや発生時の対応（ハンカチで口を塞ぐ、窓を閉める等）について学習した。また、休日であれば避難場所が2か所（気仙沼・小泉公民館、登米・中田総合体育館）に分かれることになっているため、その確認を行った。



【1次避難の様子】

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報音を聞いて、机の下に1次避難した。その後、校庭に2次避難し女川原子力発電所で事故が発生したという想定で、体育館に3次避難した。避難の際はハンカチで必ず口をおさえるように徹底した。また、学級担任以外は全ての教室の換気扇を止め、戸締りの確認を行った。



【2次避難の様子】

② 事後指導

- ・体育館に避難した後に全体会を行った。校長から避難訓練の様子について講評を行った。その後、学級ごとに振り返りを行った。



【3次避難・全体会の様子】

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 計画通り、スムーズに避難することができた。児童も危機感を持って取り組んでいた。
- 原子力災害が起きた際の知識を事前に指導しておいた。そのため、ハンカチで口を塞いだり、窓を閉めたりするなど、教師の指示がなくても自ら考えて行動する児童が多かった。
- ハンカチを携帯していない児童も数人見られた。持っていない児童もいたため、きちんと携帯しておくよう、日頃から声掛けが必要である。

石巻市立稲井小学校

住 所 石巻市真野字八の坪 1 1 6 番地 1
在籍数 2 9 4 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、東西約 1 0 km、南北約 7 km と広大で北側、東側、南側には山があり、西側は旧北上川に接している。また、学区の中央部には旧北上川の支流である真野川が流れている。学校は水田に囲まれており、集中豪雨時には周辺道路が冠水する心配がある。東日本大震災では、旧北上川沿いの地域に浸水の被害があった。



2 令和 5 年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震	4/14 想定：地震・津波（校舎屋上に避難）
津波	6/2 想定：稲井地区幼・小・中合同引き渡し訓練 11/30 想定：地震・原子力（各教室で屋内避難） 12/21 想定：地震（告知なし）
火災	10/27 想定：火災（消火体験実施）
その他	6/28 想定：不審者対応（警察官が不審者役） 9/28 想定：洪水（校舎 3 階に避難） 11/5 想定：石巻市総合防災訓練（各地区で訓練に参加）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・業前活動の「防災の時間」に地震が起きた時にどうするか話をした。「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所に避難することを確認した。また、地震発生時には緊急地震速報が鳴ること、放送や担任の先生の指示を静かに聞くこと、適切に行動することの重要性を確認した。
- ・「未来へつなぐ」（市防災教育副読本）を活用して、いろいろな災害時の避難の仕方について学習し、防災意識を高めた。



事前指導の様子



机の下に避難する様子

② 訓練の取組状況

- ・緊急地震速報の放送が流れたら、教師が指示を出し、「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所に避難する。
- ・緊急地震速報後に放送やハンドマイクで地震が発生したことを全校児童、教職員に知らせ、防災頭巾を着用する。次の指示があるまで静かに待つ。
- ・教頭や教務主任、用務員は学校内の安全を確認する。担任は人員の確認を行い、学年主任に伝え、学年主任は異常の有無を本部に伝える。



教室の廊下側に避難する様子（原子力）

③ 事後指導

- ・各教室で、避難訓練の振り返りを行う。緊急地震速報が鳴った時の避難の仕方や休み時間に起きた場合はどうするか、登下校中に起きた場合はどうするかなど学校以外での避難についても確認した。



校舎屋上へ避難する様子（地震・津波）

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 児童、教職員共に緊急地震速報を使つての訓練にも慣れ、緊張感をもって、落ち着いて訓練に取り組んでいた。
- 今年には実際に災害が起きたことを教職員が意識し、災害時に近くの職員と必要な報告、連絡、相談をして対処することにした。児童の検索の指示や安全なルートの確認、不審者への対応指示など声にして確認したことで実際に災害が発生した場合に近い形で訓練を行うことができた。
- 洪水想定避難訓練では学年主任が近くにいない場合を想定し訓練を行った。近くの担任に自分のクラスを見てもらったり、他の学年の主任から指示を受けたりし、臨機応変に対応できた。
- 防災頭巾の使い方が分からない、または壊れている場合があった。防災の時間に防災頭巾や防犯ベルの使い方、壊れていないか点検をする必要がある。
- 2次避難場所が危険のため3次避難場所に避難したり、地震後に火事が起きた想定で訓練をするなど、いろいろな想定での避難訓練を行う必要がある。

石巻市立稲井中学校

住 所 石巻市真野字八の坪 1 1 6 番地

在籍数 1 5 5 人

1 学校の概要（学校防災面）

校舎は昭和56年3月完成で、東日本大震災でも倒壊せず、今後も倒壊等の危険性は低いと思われる。ただし、校舎のつなぎ目、体育館の天井等は破損や落下の可能性を否定できない。なお、体育館は耐震性を増すための補強工事を実施した。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	6/2 想定：13時15分（生徒は各教室で授業中）、宮城県沖を震源とする大規模地震（マグニチュード9、震度6強）が発生した。教室内は電灯がいくつか上から落ちてきている。避難経路を確認したところ、大きな破損はなく、生徒を避難させることができる。校庭は、地盤沈下し液状化も見られるため体育館に避難させることにした。その後、引き渡しを行った。
その他	3学期は、毎月11日付近でシェイクアウト訓練を実施予定。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

各クラスの担任は以下の点を訓練当日の朝の会で生徒へ指導した。

- ・緊急地震速報は、地震の発生後、強く揺れる前に揺れが来ることを伝えるための情報であること。
- ・緊急地震速報が発表されてから対象となる地域に揺れが来るまではわずかな時間（数秒～数十秒）しかないこと。
- ・地震の揺れから身を守るには、その場所や状況に合わせてあわてずに行動する必要があること。
- ・あわてずに身を守る行動を起こすためには、その場その時に合わせてどのような行動を取るべきか想像しておくこと。

② 訓練の取組状況

- ・生徒、教員は地震速報を聞くとすぐに一次避難として机の下に身を隠すことができた。
- ・次の指示が出されるまで、生徒たちは静かに待機することができていた。・教員が生徒の避難と点呼をスムーズに行うことができていた。
- ・避難する際には、静かに素早く避難先に移動することができた。



机の下に隠れ安全確保をしている

③ 事後指導

- ・生徒代表として生徒会長が訓練の感想を発表した。訓練時に見た生徒の様子や訓練時に感じたことを発表した。
- ・帰りの会で朝の会に話した内容ができたかどうか確認をした。また、防災教育副読本も活用して、地震について指導した。



受信機を作動させるための研修会

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 教員が緊急地震速報の作動時に自分の身を守るように行動する意識が身に付いた。また、瞬時に生徒へ一次避難の指示ができるようになってきた。
- 教員対象で研修会を行うことで、緊急地震速報受信機の使い方を共有することができた。
- 訓練の内容を事前に伝えていたので、特別支援学級の生徒も落ち着いて避難行動をとることができた。
- どんな場面でも生徒が避難行動をとることができるように給食、清掃、休み時間など様々な場面で緊急地震速報受信機を活用した訓練を実施したい。
- 受信機を作動させるための研修会を実施したため、防災担当が不在でもシェイクアウト訓練のような簡単な訓練を続けていきたい。

石巻市立河南東中学校

住 所 石巻市須江字糠塚3番地3

在籍数 307人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、東西約10km、南北約15km。自転車通学の生徒が大半を占めるが、送迎による通学が増加している。和瀨地区から鹿又地区にかけて旧北上川が流れ、須江地区と和瀨地区の丘陵を除くと水田が広がる低湿地帯である。東日本大震災時の津波被害はなかったが、市街地からの避難者がかなり多かった。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	5/12 想定：震度6弱，マグニチュード7.0以上。 11/5 市総合防災訓練の実施計画により，地区別に想定。 11/22 想定：震度5弱，マグニチュード6.0程度。
火災	10/24 想定：第2理科室より出火。延焼の恐れあり。
その 他	7/14 想定：女川原発の異常。放射性物質の飛散。 1/24 想定：不審者侵入。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- 石巻市防災教育副読本を用いた授業。
- 東日本大震災の被害，復興の状況の理解。
- 休み時間中の安全確保方法の指導。
廊下，トイレ，校庭，その他教室以外の場所での安全確保。
- 部活動中の安全確保。
- 地震の揺れが収まった後の緊急放送と対応（原子力災害発生時の連絡等）

② 訓練の取組状況

- 5月，11月の訓練において，生徒は素早い避難行動がとれていた。
- 教員の動きについては，課題が確認された。



5月 避難訓練 一次避難の様子



5月 避難訓練 二次避難の様子

- ・ 休み時間中の訓練でも、緊急放送に素早く反応し、地震の安全確保ができていた。
- ・ 5月の避難訓練は、中学校区内保育所、小学校と中学校で連携し、同時刻の地震発生、避難訓練を行った後、引渡し訓練を行った。
- ・ 「緊急放送を聞く訓練」として年3回、地震、原子力災害、不審者侵入を想定し一時避難のみの訓練を行っている。今年度は、原子力災害については地震による異常ではない想定で行った。



5月 避難訓練後の引渡し訓練の様子

③ 事後指導

- ・ 避難訓練では、Google フォームによる振り返りを行っている。
- ・ 教科、領域等授業においても訓練の取組状況と合わせた指導を各担当で指導している。



11月 緊急放送（地震）を聞く訓練

例：2学年社会科地理的分野

「日本の地域的特色と地域区分」

3学年英語「Be Prepared and work Together」

- ・ 学校運営協議会役員の避難訓練参観により訓練の第三者評価に協力をいただいている。評価結果を受けて、校内危機管理委員会等の諸会議において次年度に向けた課題改善について協議している。

(2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 緊急地震速報受信機の活用により、警報音発生後の生徒の安全確保行動が素早く冷静さのある行動になってきている。例えば、昨年度までは警報音発生直後に「ダンゴムシのポーズ」を素早くとる生徒が多かったが、今年度は、天井や壁など崩落物、危険物の有無の確認など自分のいる状況、周囲を確認しながら安全な場所に移動したり、頭部保護をしたりと冷静さが感じられる行動が目立つようになった。
- 保・小・中の連携避難訓練は2回目だったが、滞りなく実施できた。警報音や被害がおきるときの模擬音は訓練に緊張感を持たせられる効果を感じられた。
- 緊急地震速報受信機の訓練音を利用する回数を増やしたい。
- 訓練の想定では、「震度6」や「震度7」といった大災害をもたらす揺れが発生する放送をしているが、避難する際に生徒の頭部保護のためのヘルメット着用ができていない。ヘルメットを常設できるよう、対応を検討したい。

石巻市立山下小学校

住所 石巻市山下町一丁目10番10号

在籍数 171人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、東西約1.5km、南北約1.5km。学区外から通学している児童は、保護者による送迎。学校から最も遠い地区までは、通常時に自動車で5分程度かかる。明神山地区は同じ丘陵地にあるが、山下町1丁目、2丁目の一部を除く他地区は平地に位置している。

校舎は、現校舎は昭和59年完成で倒壊等の危険性は低い。東日本大震災後、平成24年に体育館の耐震工事が完了した。また、平成25年に校舎・体育館の災害復旧工事、平成27年から老朽化対策工事が行われた。

校地は、丘陵地にあるため、津波や洪水の危険性は事実上ない。本校は、石巻市地震防災マップで木造建物全壊率危険度1の場所と示されており、液状化による地割れなどの被害は低いとされているが、校庭西側のフェンス外の下へ続く崖が崩れる危険性はある。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	<p>4/17 想定：宮城県沖マグニチュード7.5と推定され震度は5強以上地震沈静後さらに余震の恐れあり、全員避難の必要があり、校庭に避難をする。 年度始め経路確認避難訓練⇒教職員と児童で避難経路を確認する。</p> <p>6/14 想定：宮城県沖を震源とする震度5強の地震が発生。強い揺れが30秒続く。(校舎倒壊の恐れなし、津波の心配なし) 清掃時のショート避難訓練⇒放送を聞き、安全な場所で1次避難。</p> <p>10/31 想定：宮城県沖を震源とする震度5強の地震が発生。強い揺れが30秒続く。(校舎倒壊の恐れなし、津波の心配なし) 昼休みのショート避難訓練⇒放送を聞き、安全な場所で1次避難。</p> <p>12/21 想定：宮城県沖を震源とする震度5強の地震が発生。強い揺れが30秒続く。(校舎倒壊の恐れなし、津波の心配なし) 業前時のショート避難訓練⇒放送を聞き、安全な場所で1次避難。</p>
火災	<p>11/9 想定：家庭科室から出火。強風のため火の勢いが強く、煙に巻かれる恐れあり。全員避難の必要あり。 火災想定避難訓練⇒活動場所から校庭への避難誘導訓練。</p>
その他	<p>6/9 想定：災害等で、通常下校は危険と判断。保護者への引き渡しを行う。 1年生対象の引渡し訓練⇒保護者に確実に引き渡す。保護者との共通理解</p> <p>6/21 想定：不審者が校舎内に侵入。 不審者想定対応確認⇒侵入時の行動と対応の確認。校内放送の共通理解。</p> <p>10/12 想定：女川原子力発電所で原子力事故が発生。校長判断により校舎内待機を行う。 原子力事故想定業前活動中のショート避難訓練⇒1次避難し待機</p> <p>11/5 想定：8時30分、震度6強の地震が発生。自宅で石巻総合防災訓練(家庭でシェイクアウト訓練)に参加した後、登校。大津波警報が発表されたが、10時40分頃大津波警報解除。通学路及び帰宅後の留守家庭で安全確保が必要になり、引渡しを行う。 全校対象の石巻中学校区4校合同引渡し訓練を行う。</p>

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

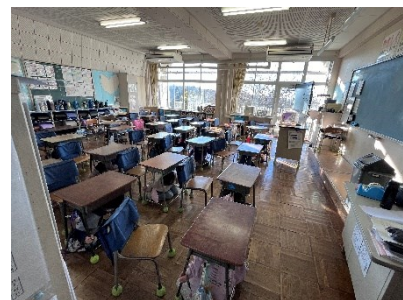
- ・職員室の職員と防災担当で操作法を確認する。
- ・職員会議で受信機と音源を活用した訓練について、教職員間で共通理解する。
- ・全校校内放送で、受信機について説明し、学級ごとに発達段階に応じた指導を行う。
- ・事前に訓練の音源を聞き、この放送が流れたらどうするかを確認する。



1次避難中の児童の様子

② 訓練の取組状況

- ・業前の活動時に受信機の音源が流れる。
- ・児童は速やかに安全な場所で1次避難を行う。
- ・今回は、業前活動中なので全員が机の下で身を守るおさるのポーズでより安全性を高める。
- ・担任は、避難経路確保のため教室の出入り口を開けると共に児童の避難の様子を見取りながら自分も身を守る行動を行う。



1次避難中の教室の様子

③ 事後指導

- ・「安全が確認できました。」の放送で訓練が終了し、学級ごとの振り返りを行った。
- ・振り返りには、通年活用している振り返りカードに各自記入し自己の振り返りを行い、その後、学級で話し合い確認を行った。
- ・緊急地震速報受信機についても再度確認した。



振り返りカードを活用した振り返り

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 初めて、緊急地震速報受信機の訓練音源を活用した訓練だったので、説明書を見ながらの訓練であったが、訓練音源を活用することで、これまでは、アナウンス担当の流していた内容が音源にあるので、訓練に取り組みやすくなると思う。
- 緊急地震速報受信機について共通理解するため、業前の防災学習として校内放送で全体への説明をしてその後に、訓練を行った。訓練後、学級ごとの発達段階に応じた確認で児童の質問や不安等を丁寧に説明する時間を取れたことがよかった。
- 受信機の扱いに慣れる必要がある。
- 訓練時の放送が、校舎内だけでなく外部にも流れてしまうので改善が必要。

石巻市立蛇田中学校

住 所 石巻市茜平五丁目3番地1

在籍数 639人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、平地にあり田んぼを整地して建設された。崖などもなく土砂災害の危険はない。校地の標高は1.6mである。

通学路のうち、新東前沼、新下前沼の水路沿いが豪雨時に冠水することがある。向陽町・あけぼの地区は、泥地の地盤で震災時液状化現象が発生した。

女川原子力発電所30km圏内(UPZ)の立地である。



2 令和5年度避難訓練実施計画

訓練	内 容 等
地震 津波	6/2 ・想定：地震（震度6強）・津波、授業中 一次避難：各教室 二次避難：体育館 三次避難：校舎3・4階
	9/15 ・想定：地震（震度6強）、休憩中 一次避難：各自、安全行動 二次避難：教室
	11/22 ・想定：地震（震度6強）・津波・原子力、授業中 一次避難：各教室 二次避難：校庭 三次避難：校舎3・4階 原子力避難行動：教室で原子力災害の学習、窓の目張り
火災	11/16 ・想定：金工室、授業中 校庭へ避難、初期消火訓練、濃煙体験
その他	4/11 ・避難経路の確認 7/7 ・避難訓練(洪水) 想定：浸水 休み時間 11/5 ・石巻市総合防災訓練 シェイクアウト訓練 各学年防災学習（1年：段ボールトイレ体験、2年：災害対応体験 3年：災害対応講話）

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- ・市の防災教育副読本を活用し、避難訓練の意義や避難の仕方について指導した。
- ・「防災の日」(年間10回、業前、全校一斉)を活用し、様々な種類の災害や、様々な場面でのより安全な避難の仕方について指導している。



【「防災の日」の指導の様子(2年生)】

② 訓練の取組状況

- ・ 緊急地震速報受信機を活用し、地震発生直前からすばやく避難行動がとれるようにした。
- ・ 校内の放送機器が使えない設定で訓練を行い、トランシーバーを活用した情報共有、指示伝達を訓練した。
- ・ 原子力避難訓練では、原子力災害について放射線の危険を学び、教室の窓の目張りや窓側から離れた避難を行った。



【緊急地震速報を使った訓練の様子】

③ 事後指導

- ・ 訓練実施後、振り返り用紙を記入し、自分の避難行動を振り返り、良かった点や改善点を確認し、今後に生かした。
- ・ 教職員の反省を生かし、避難訓練の内容や設定が毎回同じにならないように改善した。
- ・ 美化防災委員会の話合いの中でも、避難訓練の振り返りを行い、避難行動の成果と課題をクラスに伝えることで防災意識の向上を図った。



【教室の窓の目張りの様子】

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 緊急地震速報受信機を活用し、一次避難を開始したが、生徒たちは落ち着いて、すばやく行動できていた。
- 職員間で、被害の状況確認のため、しっかりと情報共有を行う予定だったが、放送機器が使えない設定のため、トランシーバーを情報伝達機器として有効に活用した。放送機器が使えなかったが、トランシーバーを活用することで、生徒への避難指示を出すための情報共有を円滑に行うことができた訓練となった。
- 今後は、管理職が不在等のどんな状況でも変わらず避難行動が行えるように、職員の役割分担を変えながら訓練をしていきたい。また、避難経路についても、様々な状況を設定し、複数の経路での訓練を行っていきたい。
- 生徒の私語が少し見られた。もう一度、訓練の意義を確認し、防災意識を高めるために、「防災の日」の学習内容を充実させていきたい。
- 原子力避難行動の訓練内容を、現実の避難を想定し、より実際に近い行動にしていきたい。

石巻市立河南西中学校

住 所 石巻市北村字小崎一 3 7 番地 2
在籍数 1 6 8 人

1 学校の概要（学校防災面）

学区は、広渚小学校・北村小学校・前谷地小学校の3校から成り立っている。前谷地・広渚地区は水田地帯が広がっており、近くには旧北上川もあり大雨の際は洪水の危険性がある。また、北村小学区は林野に覆われているため大雨時には土砂災害の危険性が高まる。河南西中学校の敷地は海拔30mの位置にあるため浸水の危険性は極めて低い環境にある。加えて切り土による台地になっているので、土砂災害の危険性も低い。



2 令和5年度避難訓練実施計画

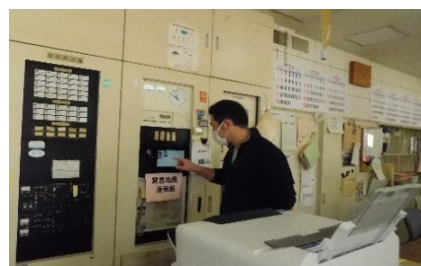
訓練	内 容 等	
地震 津波	5/1 想定	石巻市内で震度6弱の揺れを観測、宮城・福島県沖を震源とするM7.3の地震発生。（小中連携引き渡し訓練）
	6/21 想定	宮城県沖で規模の大きな地震が発生、大津波警報が発表された。
	10/4 想定	石巻市内で震度5弱の揺れを観測する、宮城・福島県沖を震源とするM7.3の地震発生（緊急地震速報受信機初使用 昼休みショート避難）。
火災	4/24 想定	第二理科室で実験中に火災発生
その他 <small>（原子力災害）</small>	12/5 想定	宮城県沖で地震が発生し、震度6強を観測。女川原発内の外部電源喪失や機器故障発生。炉心損傷により放射能物質が放出された想定（津波発生なし、緊急地震速報受信機使用）。

3 緊急地震速報受信機を活用した防災教育の実践

(1) 訓練の概要

① 事前指導等

- 新しい機器の導入にあたって、設置時に職員間で操作方法を共有した。＜職員＞
 - ・機能及び新しい報知音について共通理解を図った。
 - ・蓄積データ閲覧機能を確認した。
- 新しい機器設置に伴い、緊張感を持って訓練に臨むために事前に放置音を聴かせた。＜職員・生徒＞
- 学校における災害時の初動の動き、校舎内各場所への避難方法や自助の大切さについて再確認した。＜生徒＞



職員への操作説明の様子



生徒が報知音を聴いている様子

② 訓練の取組状況

- ・事前指導を行ったことによって、生徒の初動に素早さが見られた。
- ・受信機を活用することによって、実際の場面を想像することができ、緊張感が高まった状況で訓練に臨むことができた。
- ・生徒はサブバッグなど身近なものを利用して頭部を保護する様子が見られた（自助）。
- ・職員は生徒を危険箇所から回避させるために、トランシーバーを適切に活用して連絡を取り合い、安全の確保に努めた。



1次避難の様子

③ 事後指導

- ・過去の大きな地震による被災状況を確認し、季節毎に起こりうる二次被害、原子力災害などについて考えた。〈生徒〉
- ・放射性物質について、防災副読本で学習するとともに、より詳しい説明について動画で確認した。〈生徒〉
- ・河南西中学校の立地について考えることで、津波以外の河川の氾濫などについても気付くことができた。〈生徒〉



原子力災害避難訓練後の様子

(2) 成果と課題 (○：成果 ●：課題)

- 生徒は担任からの事前・事後指導を真剣に受け止め、自分事として捉えることができていた。
- 中堅・若手教員の防災意識の温度差がなくなるきっかけになった。
- （受信機設置後2回目の訓練では）夕暮れ時の避難となり、薄暗い中での避難の課題について考えることができた。災害はいつ発生するかわからないので、今後も様々な時間に実施したい。
- 3次避難（各教室へ）の際にも、教職員で連絡を取り合いながら、廊下・階段の安全確認を丁寧に行うことができた。
- 管理職不在という条件での訓練だったが、職員は各々自分の役割を判断し、行動することができた。
- 生徒は、東日本大震災当時のことをあまり覚えていないので、映像を事前に視聴した後に訓練を実施すると、緊迫感を持って訓練に臨むことができるのではないかと感じた。
- 予告なしの訓練では、集中力が続かない生徒も見られた。日頃の声掛けや繰り返し訓練することが必要である。
- 実際に災害が起きた場面を想定し、安全な環境づくりや備えについて繰り返し確認する必要がある。
- 生徒が自ら考えた避難行動ができるよう、様々な場面を考えながら実践的な避難訓練を行う必要がある。

3 「復興・防災マップ」の取組

実践協力校：石巻市立向陽小学校

石巻市立雄勝小学校





石巻市立石巻中学校





復興・防災マップの取組

石巻市立向陽小学校

- 1 ねらい
 - ・マップ作りを通して、地域の中で安全に生活できるようにする。
 - ・マップづくりを通して、向陽小学校区のよさと魅力を再発見する。
- 2 テーマ
 - ・防災について考えよう
- 3 指導時数
 - ・30時間
- 4 指導の流れ
 - ・指導計画

月	時数	主な学習活動	
5月	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいや活動について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ねらいについて確認する ○ 活動計画について確認する ○ 復興防災マップの概要を知る
6月	2	<ul style="list-style-type: none"> ・震災遺構門脇小学校に見学に行く  <p style="text-align: center;">門脇小学校の見学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東日本大震災の被害状況について知る ○ 東日本大震災からの避難について知る ○ 東日本大震災について学んだことをもとにこれからの生活に生かせることを考える  <p style="text-align: center;">グループで役割分担をしている様子</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・震災遺構門脇小学校に見学に行ったことを新聞にまとめ、読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 震災遺構門脇小学校見学で学んだことを新聞にまとめる ・驚いたこと ・初めて知ったこと ・これからの生活で生かしたいこと ○ 新聞を互いに読み合う
9月	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・地形図の読み取り ※社会科 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地形の起伏について知る ○ 地形について分かったことをまとめる
	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・地形図の読み取り ※社会科 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地形図から起こりうる災害について知る ○ 起こりうる災害について分かったことをまとめる
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・向陽地区の歴史を知る方からの講話  <p style="text-align: center;">向陽学区の歴史についての講話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 向陽地区でこれまでにあった災害について知る ○ 向陽地区にある防災設備について知る ○ 向陽地区にある魅力について知る  <p style="text-align: center;">地域の方から、マップを見た感想を聞いている所</p>
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災当時の向陽小学校の状況を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東日本大震災当時の学校の様子を知る ・向陽地区付近の被害の様子 ・向陽小で開設した避難所の様子
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・講話内容の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講話の内容から学んだことを振り返る
10・11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・町歩き計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ分け ○ 地区の確認 ○ 町歩きで探すものの確認

10 ・ 11 月	3	・町歩きをする（班） 	○ わかば地区、境谷地地区、浜江場地区に分かれて町歩きして気付いたことをメモする ○ 振り返りを行う 
		町歩きで北上川の水位を確認している所	学習参観日で、保護者に発表している様子
	10	・復興防災マップにまとめる	○ まとめ方を確認する ○ 復興防災マップを作る
	3	・復興防災マップの発表の準備	○ 発表練習を行う ○ 発表リハーサルをする
12 月	1	・復興防災マップの発表	○ 児童同士で発表会を行う
	1	・復興防災マップの発表	○ 参観日に保護者に向けて発表会を行う
	1	・振り返り	○ 復興防災マップ作りから学んだことを振り返る

・教員間で確認したこと

- ① マップを完成させるまでの流れを確認し、上記のような日程で活動を設定した。
- ② 防災や向陽地区に関する知識を身に付けさせるために震災遺構門脇小学校に行ったり地域のことに詳しい方から講話をしていただいたりすることにした。
- ③ 学区を4つの地区に分けて「安全」「危険」「自慢」な所を見つけさせることにした。
- ④ 町歩きのルートを児童に決めさせた後、教員が実際にそのルートに行き、「安全」「危険」「自慢」な施設や設備等があるかどうか確認した。
- ⑤ マップまとめ方と使用する用品の確認をした。

→【まとめ方】

4つの地区を1枚ずつの地図にまとめること、役割を細かく決めて各地区のメンバー全員で仕事が分担できるようにすること、地区ごとにCMを作成してQRコードで紹介できるようにすること。

→【用品】

地図は「MEET 門脇」さんからいただいたA0サイズのもの、地図の台紙として色画用紙、見つけてきた「安全」「危険」「自慢」な施設や設備等を地図上に表すためのシールと写真。

5 成果

- 山形大学客員研究員の村山良之先生の助言を受けて、向陽小学区の地形やマップのつくり方について理解することができた。
- 事前学習として、門脇小学校への見学や地形図の読み取り、地域の方からの講話を行ったことで、町歩きを行う際に危険個所や場所に気が付くことができた。
- 一人一人に役割があったため、協力して進めることや責任感を持って取り組むことの大切さや難しさを実感し、これからの活動でも生かしていきたいという思いをもつ児童が増えた。
- 様々な方々と関わってマップを作成したため、地域の方や保護者などに支えられていることに気が付くことができた。
- 向陽小学校区のよさに気が付くことができただけでなく、改善していきたいことも見つけることができ、自分たちで向陽小学校区をよくしていきたいという思いを持つ児童が増えた。
- 児童同士で作品を発表し合うことで、各地域のことを詳しく知ることができた。

6 課題

- ▲1グループ10名程度のグループでマップ作りを行ったが、人数が多く役割分担をするのに難しさを感じたため、1グループ4～5人程度が適切になると思った。また、町歩きする地区もより細かく分ける必要があると感じた。
- ▲協力したり役割分担したりしながら活動することを重点に置いた活動を行ったが、児童がより主体的に活動できるような課題設定を行っていく必要があると感じた。
- ▲文章を書いたり、使用する写真を選んだりするのに時間がかかってしまい、事前に計画していた時数を超過してしまうことがあったため、教師が見通しをしっかりとって計画する必要があると感じた。

復興・防災マップの取組

石巻市立雄勝小学校

- 1 ねらい
 - ① 雄勝地区を調べる活動「まち歩き」を通して、東日本大震災における地震と津波の影響から復興している今の様子をマップに残す。
 - ② 人口が激減したにも関わらず、町を残すために、復興活動に取り組んでいる住人の思いや活動に触れたり、地域の植栽活動に参加したりする活動を通して、雄勝に愛着をもち、雄勝の未来を考えようとする態度を育てる。
- 2 テーマ 「ふるさと雄勝から学ぼう～復興の歩み、歩み続ける雄勝～」
- 3 指導時数 16時間
- 4 指導の流れ

段階	主な学習活動
つかむ	【オリエンテーション①】 東日本大震災と復興について学ぼう 講師：徳水 博志 氏 （一般社団法人雄勝花物語共同代表 石巻教育委員会社会教育委員）
	【オリエンテーション②】 雄勝地区の地形の特徴について知ろう
	【オリエンテーション③】 防災マップづくりについて知ろう
深める	まち歩きの計画を立てる ① まち歩きでめぐる場所を確認する ② インタビューの質問を考える ③ 役割分担をする
	【まち歩きをしよう①】 まち歩き 案内：徳水 博志 氏 （一般社団法人雄勝花物語共同代表 石巻教育委員会 社会教育委員）
	① 危険な場所を調べる ② 安全のための施設を調べる ③ 復興活動に取り組む方々の活動の見学やインタビューをする ④ 地域のために働く活動として、植栽活動に取り組む
	【まち歩きをしよう②】 まち歩きの振り返り
	【深めよう①】 地域の魅力などについて自分で調べたいことを決めて調べる計画を立てる
	【深めよう②】 本やインターネット、インタビューなどで調べる



	【マップづくりをしよう】 これまでに調べたことをカードにまとめる
い	【みんなに伝えよう】
か	学習参観で、家族や地域の方に発表する
す	【振り返り】

5 成果

(1) 事前に、山形大学客員研究員の村山良之先生から助言を受けたことで、マップづくりの進め方について見通しを持つことができた。



(2) 今回の学習で、東日本大震災当時雄勝小学校で勤務されていた徳水博志さんに講話をいただいたことで、当時の様子を知ることができた。さらに、津波が高くなる要因となった地形の特徴を話していただいたことで、震災に関する知識を深めることができた。

(3) 「重ねるハザードマップ」を活用し、雄勝地区の津波浸水区域や土砂災害警戒区域、避難場所などを読み取ることができた。本校には学区内に住む児童だけではなく、鹿又地区や河北地区、神奈川県から留学で来ている児童がいる。そのような児童が住む場所の周辺の災害特性についても、「重ねるハザードマップ」を活用して学ぶことで、自分が住む地域の災害特性についての知識をもち、防災意識を高めることができた。



(4) 「重ねるハザードマップ」で読み取った津波浸水区域や土砂災害警戒区域の場所を、まち歩きで実際に見ることで、災害が起きた時のイメージをもつと同時に、災害時に役立つ施設を見付けたり、災害時の避難行動について考えたりすることができた。また、復興活動に取り組む住民の方の活動の様子を見学したり、思いに触れたりすることで、児童は尊敬の念を抱いていた。さらに、自分で調べたいことをさらに探求する時間を設けたことで、地域の魅力についての考えが深まり、地域を大切にしようとする思いが高まっていた。



6 課題

(1) 今年度は東日本大震災当時雄勝小学校に勤務されていた徳水博志さんに御協力いただき、講話やまち歩きの案内をしていただいた。今後はより多くの情報を収集するために、区長や防災士などの地域人材を活用していく必要がある。

(2) 今年度は、雄勝地区の中でも雄勝中央を中心に調べた。次年度以降は、他の地域に広げていく。

(3) 今年度は、津波や土砂災害を中心に調べたが、次年度以降は火災や洪水など、防災の視野を広げて調べていくことで、防災の知識が広がると考えられる。

復興・防災マップの取組

石巻市立石巻中学校

1 ねらい

- (1) 自らが住む地域について進んで知ろうとするとともに、活動を通して学んだことを工夫しながらわかりやすくまとめようとしている。
- (2) 調べたことを他の生徒や地域住民に伝えながら、防災について更に深く学び、防災意識を向上させようとしている。
- (3) 他の生徒や地域の人々と関わる際に、学ぼうとする意欲と相手への敬意をもって接している。

2 テーマ 学区内小学校区（石巻小・山下小・大街道小）ごとの復興・防災マップ

3 指導時数 12時間

4 指導の流れ

(1) 学区内の地形と災害について学ぶ

ウェブサイト「重ねるハザードマップ」を活用し、石巻中学校区の地形がどのようになっているかを学ぶとともに、自然災害のリスクやまたその対策としてどのようなものがあるかを考えた。学習を通して、地形による災害リスクの違いについて学んだり、自然災害の発生のしくみや危険性について理解したりすることができた。また、石巻中学校がある場所は比較的災害のリスクが低いものの、学区内は洪水による浸水被害、津波、土砂災害などによって大きな被害を受ける可能性があることに気づくことができた。



(2) 旧門脇小学校や石巻南浜津波復興祈念公園、MEET門脇の見学や講話

石巻南浜津波復興祈念公園や旧門脇小学校、MEET門脇の見学や係員による講話を通して、東日本大震災時のことや、災害時の対応について学んだ。復興祈念公園及び伝承館の見学では、東日本大震災がどのくらい大きな災害であったかを学んだ。旧門脇小学校の見学では、津波火災によって焼失した校舎の様子や、日本の地震発生の歴史について知ることができた。また、MEET門脇の見学では、津波に対してどのように備えることが



必要かを考えることができた。復興・防災マップの制作に向けて、学区内の過去の災害について知る機会になったとともに、コミュニティ・スクールの防災教育部と連携をして、説明や学習のサポートを行うことができた。



(3) 防災マップを制作する

これまでの防災学習や震災伝承施設の見学を踏まえて、生徒を石巻小学区・山下小学区・大街道小学区の3チームに分けて、防災マップの制作を行った。全校生徒に、中学校区内の危険箇所についてのアンケートをとり、その結果も活用しながら、学区内で災害リスクが高い場所や、避難場所として活用できる場所についてまとめた。地元に住んでいる生徒だからこそわかる、学区内の危険箇所についても復興・防災マップに入れることができ、居住している場所について理解を深める活動とすることができた。



5 成果

- ・事前に東北大学災害科学国際研究所の桜井愛子先生から助言を受けたことによって、マップづくりの進め方について見通しを持つことができた。
- ・防災学習や地域の街歩きなどを通して、学区内の災害リスクについて学び、危険な場所をシールで示したり、当該箇所の写真を撮ったりして、防災マップ作りに生かすことができた。
- ・学区内の震災伝承施設である、「旧門脇小学校」や「石巻南浜津波復興祈念公園」、「MEET門脇」の見学や担当者の講話を通して、東日本大震災時の出来事を知り、今後の防災学習への意欲を高めることができた。
- ・普段の通学の際に危険箇所について考え、自らが住んでいる学区だからこそわかる、細い道や避難できそうな場所などを見つけ、マップにまとめることができた。

6 課題

今年度は教科や総合的な学習の時間に位置付けるのではなく、生徒会活動として有志生徒による活動となった。そのため、復興・防災マップづくりに参加した生徒が少なかつたため、今後はさらに多くの生徒が主体的に参加できる防災教育を推進したい。→来年度は教科等の年間指導計画の中に防災学習を明確に位置付け、今年度の活動を土台として、できるだけ多くの生徒にとって学びのある活動が展開できるようにしていきたい。

Ⅲ 「交通安全の充実」に向けた取組 実践協力校：石巻市立貞山小学校



「交通安全の充実」に向けた取組

石巻市立貞山小学校

1 ねらい

日常生活における安全のために必要な事柄を理解し，安全に行動ができる態度や能力を身に付ける。

2 テーマ

自分の命は自分で守る意識を高め，危険を回避するための適切な行動をとる力を身に付ける。

3 指導時数

- (1) 春の交通安全教室・・・学級活動 1
- (2) 秋の交通安全教室・・・学級活動 1
- (3) 交通安全マップ作り・・・総合的な学習の時間 1 4 (5年生)
- (4) 交通安全少年団活動・・・業前活動，終業式等
- (5) 学校区パトロール・・・課外活動

4 指導の流れ

(1) 春の交通安全教室

低学年の児童は，安全な歩行の仕方について貞山地区を歩きながら学習した。石巻市の交通指導隊の協力を頂戴し，複数体制で指導に当たった。中，高学年の児童は，校庭に準備した模擬道路等を活用して自転車の安全な乗り方について学習した。練習コースは以下の3か所設置。

① 模擬道路（実戦練習）

横断歩道の渡り方や左側を安全に走行できているか等を実際の道路を想定して実践練習した。

② 運転練習コース

S字に引いた細いコースで練習する。安全に乗れるかどうかを確認することや，運転に慣れな児童の練習を目的として実施した。

③ 急ブレーキ体験

スピードを上げた状態でブレーキを掛けたときの，停止するまでの時間と距離（制動距離）を理解するために実施した。

(2) 秋の交通安全教室

低・中・高学年部に分かれて，DVDを視聴して学習した。実際の道路にはどのような危険が潜んでいるか，事故を起こしてしまったときにどのような責任が生じるかなどについての具体例を学習した。

(3) 交通安全マップ作り

5年生の総合的な学習の時間において、貞山地区の安全マップを作成した。児童はフィールドワークの前に東北工業大学の小川和久先生の講話から交通安全上の危険の4つの視点を学んだ。その後、4つの視点ごとにグループを編成し、地区の危険箇所の調査を行った。どのような危険や事故が想定されるかだけでなく、実際に歩くときにどのようなことに注意すべきかをマップに記載した。小さい子に安全を呼び掛けることをテーマにマップを作成したため、1日入学等で来年度入学児童への発表、もしくは低学年への発表を計画している。



(4) 交通安全少年団活動

過去に貞山地区で事故に遭い命を落としてしまった児童がいることから、昭和51年に発足した。現在は、計画委員会の6年生が中心として組織されている。交通安全教室の全体会や各学期の終業式等で「貞山地区交通少年団の約束」を全校児童と唱和することで、自分の命は自分で守るということを全校に呼び掛けている。今年度は計画委員会以外の6年生もローテーションで加わり、より多くの声で安全への呼び掛けを行った。



5 成果

- (1) 交通安全マップ作りの中で、主体的に学ぶ児童の姿がたくさん見られた。コロナ禍の影響からか5年生の児童でも貞山地区に住みながら、初めて知る情報も多くあり、地域をより詳しく知るきっかけにもなった。地域への関心が交通安全への関心に欠かせないことを実感した。
- (2) 5年生で交通安全マップを作成し、関心が高まったことで、6年生になって交通安全少年団としての活動を楽しみにしている児童が増えた。
- (3) 交通安全教室は、発達段階に応じて内容を変え、中高学年は3、5年生と4、6年生に分かれて実施したことでお互いの様子を見合うことができた。

6 課題

- (1) 「交通安全少年団の約束」が長く、全校に浸透させることが難しい。教室に掲示するなどし、可視化していくことが必要である。
- (2) 交通安全マップの作成を続けていくなれば、児童の視点だけでなく、児童がどのように見られているかなど保護者や地域の声をもとにすることも必要である。
- (3) 交通安全少年団の活動は、全校で唱和するにとどまっているため、標語を募集して交通安全少年団で審査をするなど児童のアイデアを生かすようにしていきたい。

IV 「生活安全（防犯を含む）の充実」
に向けた取組
実践協力校：石巻市立万石浦小学校



「生活安全（防犯を含む）の充実」に向けた取組

石巻市立万石浦小学校

1 ねらい

- ① 不審者が本校敷地内や校舎内に侵入した際、教職員が児童を安全に避難させるため、不審者侵入想定避難訓練を通して、不審者に対する防犯意識を高め、冷静に行動できるようにする。
- ② 不審者侵入想定避難訓練を通して、職員間の連携や役割分担などの共通理解を図り、児童が安全に避難できるようにする。



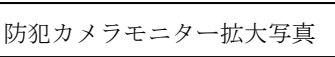

2 テーマ

- ・防犯カメラやタブレット端末、トランシーバーを活用した不審者侵入想定避難訓練

3 指導時数

- ・1時間

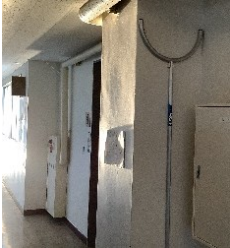
4 指導の流れ

時間	☆職員	○1階の担任と児童（1年生） ◇2、3階の担任と児童
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ・担任は担当児童に防犯訓練についての事前指導を行う。（ねらいと基本的な行動などについて） 	
9:35	<p>「ただいまから防犯訓練を行います。」と放送で周知する。【教頭】</p>	
9:35	<p>☆ 教頭が東門から侵入した不審な者を、東昇降口の防犯カメラで発見し、校長に報告する。</p> <p>校長は、侵入者が明らかに挙動不審なことから、すぐに本部を立ち上げるよう指示する。職員に1階の施錠確認をするよう指示する。</p> <p>☆ 校長は、教頭と用務員に東昇降口に行き、内側から不審者の動きを確認するよう指示する。</p> <p>☆ 教頭と用務員は東昇降口に向かう。（さすまたとトランシーバーを持参）</p> <p>☆ 校長が事務に警察への通報と校内緊急放送をするよう指示する。</p> <p>☆ 教頭と用務員がドア越しに不審者に声をかけたところで押し問答になる。不審者対応を開始する。</p>	<p>○◇2時間目の授業を行っている。</p> <div style="text-align: center;">  <p>東昇降口の防犯カメラ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>防犯カメラモニターで不審者を発見</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>防犯カメラモニター拡大写真</p> </div>
9:37	<p>☆ 職員室にいる教員による緊急放送</p> <div style="text-align: center;">  <p>全校緊急放送の様子</p> </div>	<p>○◇担任は「全校放送」から、異常事態を判断。児童を掌握し、安全を確保する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教室前後の入り口の鍵を閉める。 ② 教室等に児童が全員いるか確認する。その場にはいない児童がいる場合は、クラスルームに情報を載せ、校長に報告する。児童が全員いる場合は、報

	<p>☆ 主事は、放送後、グーグルのクラスルーム（以下、クラスルーム）を立ち上げる。各担任へ不審者の位置情報を発信する。</p> <p>※ 児童の安全確認や不審者の位置情報は、クラスルームを通して行う。但し、不審者が校舎内に侵入した場合は緊急対応となるので、職員への連絡は、トランシーバーを通して行う。</p>	<p>告の必要はない。</p> <p>③ 窓の目隠しを行う。</p> <p>④ バリケードを作る。（児童も可能な範囲でバリケード作りに参加する。）</p> <p>⑤ 教室内に児童がいることに気付かれないよう静かに待つ。</p> <p>◇ 児童の安全確保の後、どちらかの学級の担任は不審者対応にあたる。</p>
<p>9:38</p> <p>9:41</p> <p>9:43</p>	<p>☆ 養護教諭は、不審者対応の教員にけが人が出た場合、必要に応じて処置をする。</p> <p>☆ 不審者対応の教職員は自身の安全を確保しながら、不審者が校舎内に侵入することや児童に近づくことを防ぐ。</p> <p>☆ 主事はクラスルームを使用して不審者がいる場所を児童を見守る職員に伝え情報を共有できるようにする。校舎内へ侵入した不審者をトイレ付近で警察が確保する。</p>	<p>◇ 不審者対応職員は、さすまたなどを持って警察が来るまでの間、複数で対応する。</p> <p>○◇ 児童を見守る担任と支援員は児童を落ち着かせる。また、児童の健康状態の確認を行う。</p>
<p>9:55</p>	<p>【防犯教室】 場所：体育館</p> <p>警察の方からのお話の主な内容</p> <p>① 不審者に遭遇しないために</p> <p>② もし不審者に遭遇してしまったら</p>	



完成したバリケード



廊下に設置してある「さすまた」

※放課後、職員による防災教育研修会を開催する。
研修会では、不審者対応訓練の振り返りを行い、成果や課題について考えを共有する。

5 成果

- ・東北工業大学の小川和久先生からの助言を受け、不審者の対処法について事前に知ることができた。
- ・不審者に対応している職員同士の連携がよかった。
- ・教室の施錠がしっかりできていた。
- ・警察との連携ができていた。緊張感をもって訓練ができていた。



研修会の様子

6 課題

- ・様々な場面を想定して訓練をする必要がある。（体育館での授業時や休み時間等）
- ・出張等で職員が手薄な時でも対応できるようにしておく必要がある。
- ・「警察が来るまでの時間稼ぎをいかにするか」という視点が大事である。
- ・防犯カメラのモニターが見えにくい位置にあるので、見やすい位置に変更する必要がある。
- ・地域と連携した取り組みの推進を今後も進めていく必要がある。
- ・「離れる・逃げる・知らせる」、その上で「いかのおすし」を意識すると児童は対応しやすくなるとのこと。このことを生かしていく必要がある。